

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年6月28日

【事業年度】 第172期(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

【会社名】 西日本鉄道株式会社

【英訳名】 Nishi-Nippon Railroad Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 竹島和幸

【本店の所在の場所】 福岡市中央区天神一丁目11番17号

【電話番号】 福岡(092)734-1553

【事務連絡者氏名】 総務部法務課長 馬場宏明

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区有楽町二丁目10番1号 東京交通会館6階  
西日本鉄道株式会社東京事務所

【電話番号】 東京(03)5208-8311

【事務連絡者氏名】 所長 吉田透

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第168期	第169期	第170期	第171期	第172期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
営業収益 (百万円)	362,089	345,147	313,853	323,891	327,509
経常利益 (百万円)	16,112	9,185	6,817	9,187	13,572
当期純利益 (百万円)	6,514	1,030	2,873	5,782	5,396
包括利益 (百万円)	-	-	-	3,908	5,593
純資産額 (百万円)	112,892	104,473	105,369	106,604	109,667
総資産額 (百万円)	411,903	400,997	405,185	396,950	412,438
1株当たり純資産額 (円)	278.39	258.34	260.47	264.07	271.75
1株当たり 当期純利益金額 (円)	16.47	2.60	7.27	14.63	13.66
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	14.62	13.64
自己資本比率 (%)	26.7	25.5	25.4	26.3	26.0
自己資本利益率 (%)	5.83	0.97	2.80	5.58	5.10
株価収益率 (倍)	21.68	143.61	49.66	24.47	28.48
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	22,303	17,694	27,067	29,300	30,021
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	22,422	36,171	20,222	23,134	16,043
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	873	10,274	4,887	7,049	6,855
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	24,590	15,613	27,512	26,316	33,276
従業員数 (平均臨時雇用者数) (人)	17,834 (5,696)	18,326 (5,837)	18,168 (5,849)	17,426 (5,564)	17,530 (5,898)

(注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていません。

2 第171期及び第172期以外の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

3 当連結会計年度より潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に当たり、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日)を適用しています。当該会計方針の変更は遡及適用され、第171期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額について遡及処理を行っています。

4 平均臨時雇用者数は外数で記載しています。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第168期	第169期	第170期	第171期	第172期
決算年月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月
営業収益 (百万円)	136,350	128,089	128,010	132,555	135,246
経常利益 (百万円)	10,511	6,092	5,283	6,471	9,468
当期純利益 (百万円)	5,800	2,490	4,679	5,556	3,068
資本金 (百万円)	26,157	26,157	26,157	26,157	26,157
発行済株式総数 (千株)	396,800	396,800	396,800	396,800	396,800
純資産額 (百万円)	85,457	80,242	82,250	84,139	85,138
総資産額 (百万円)	323,054	333,593	346,898	347,109	363,272
1株当たり純資産額 (円)	216.02	202.98	208.11	212.86	215.19
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	7.00 (3.00)	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)	6.00 (3.00)
1株当たり 当期純利益金額 (円)	14.66	6.30	11.84	14.06	7.77
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	14.05	7.76
自己資本比率 (%)	26.5	24.1	23.7	24.2	23.4
自己資本利益率 (%)	6.65	3.01	5.76	6.68	3.63
株価収益率 (倍)	24.35	59.39	30.49	25.46	50.06
配当性向 (%)	47.7	95.2	50.7	42.7	77.2
従業員数 (平均臨時雇用者数) (人)	4,310 (180)	4,370 (187)	4,331 (173)	4,208 (159)	4,142 (159)

(注) 1 営業収益には、消費税等は含まれていません。

2 第168期の1株当たり配当額7円には、創立100周年記念配当1円を含んでいます。

3 第171期及び第172期以外の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

4 第172期より潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に当たり、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日)を適用しています。当該会計方針の変更は遡及適用され、第171期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額について遡及処理を行っています。

5 平均臨時雇用者数は外数で記載しています。

2 【沿革】

年月	摘要
明治41年12月	九州電気軌道(株)設立(資本金1,000千円)
明治44年6月	軌道事業開始
大正13年4月	九州鉄道(株) 軌道事業開始(福岡～久留米間)
昭和4年8月	バス事業開始
昭和7年7月	到津遊園開園
昭和17年9月	九州鉄道(株)、博多湾鉄道汽船(株)、福博電車(株)、筑前参宮鉄道(株)を合併 商号を西日本鉄道(株)と変更、本店を福岡市に移転
昭和18年7月	九州自動車(株)を合併
昭和18年7月	福岡県下バス事業の統合(昭和19年7月まで)
昭和21年10月	西日本車体工業(株)の設立
昭和23年9月	山佐運送(株)(現・西鉄不動産(株))の設立
昭和23年12月	航空会社代理店業開始
昭和24年5月	大阪証券取引所、東京証券取引所に株式を上場
昭和24年6月	福岡証券取引所に株式を上場
昭和26年2月	筑豊電気鉄道(株)の設立
昭和29年11月	西鉄観光(株)(現・西鉄旅行(株))の設立
昭和37年4月	本店を福岡市中央区天神一丁目11番17号福岡ビル(現在地)に移転
昭和38年3月	(株)福岡交通センターの設立
昭和41年4月	不動産事業開始
昭和44年6月	(株)西鉄ストアの設立
昭和46年4月	西鉄地所(株)を合併
昭和46年8月	米国にNNR・エアカーゴ・サービス(U.S.A.)(現・NNR・グローバル・ロジスティクス(U.S.A.))の設立
昭和47年5月	(株)九州メタルスクラップ(現・九州メタル産業(株))の設立
昭和48年11月	高速バス「ひのくに号」運行開始(福岡～熊本間)
昭和54年2月	福岡市内線(千代町～天神～千代町間)軌道事業廃止、宮地岳線一部(千鳥橋～貝塚間)鉄道事業廃止
昭和58年3月	西鉄運輸(株)の設立
平成元年3月	ソラリアプラザビル完成
平成3年11月	英国にNNR・エアカーゴ・サービス(U.K.)(現・NNR・グローバル・ロジスティクス(U.K.))の設立
平成4年10月	北九州線一部(砂津～黒崎駅前間)軌道事業廃止
平成5年3月	ドイツにNNR・ダクサーの設立
平成5年4月	レストランシップ「マリエラ」運航開始
平成9年10月	ソラリアターミナルビル完成
平成11年4月	ソラリアステージビル完成
平成11年4月	(株)西鉄グランドホテル(現・(株)西鉄シティホテル)の設立
平成12年5月	到津遊園を閉園
平成12年11月	チャチャタウン小倉完成、営業開始
平成12年11月	北九州線(熊西～折尾間)軌道事業廃止
平成14年5月	西鉄バス北九州(株)の設立
平成14年10月	西鉄バス北九州(株)へ北九州地区の自動車事業を営業譲渡
平成15年7月	「西鉄グループコンプライアンス方針」の制定、コンプライアンス推進体制の整備
平成16年7月	西鉄エム・テック(株)へ自動車整備事業を営業譲渡
平成18年1月	「西鉄グループCSR推進会議」の設置
平成18年3月	(株)スピナの株式を取得、子会社化
平成18年6月	執行役員制度導入
平成18年12月	大阪証券取引所市場第一部への株式上場を廃止
平成19年3月	宮地岳線一部(西鉄新宮～津屋崎間)鉄道事業廃止(平成19年4月より、線名を貝塚線に変更)
平成20年5月	ICカード「nimoca」サービス開始
平成22年10月	西日本車体工業(株)を解散

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社75社及び関連会社9社で構成され、その営んでいる主な事業内容は次のとおりです。

#### (1) 運輸業(21社)

事業の内容	会社名
鉄道事業	当社、筑豊電気鉄道(株)
バス事業	当社、西鉄バス北九州(株)、西鉄観光バス(株)、亀の井バス(株)
タクシー事業	福岡西鉄タクシー(株)、久留米西鉄タクシー(株)、北九西鉄タクシー(株)
運輸関連事業	(株)西鉄ステーションサービス その他12社

#### (2) 不動産業(7社)

事業の内容	会社名
不動産賃貸事業	当社、(株)福岡交通センター、(株)スピナ
不動産分譲事業	当社
その他不動産事業	西鉄ビルマネージメント(株)、西鉄不動産(株) その他2社

#### (3) 流通業(4社)

事業の内容	会社名
ストア事業	(株)西鉄ストア、(株)あんくるふじや、(株)インキューブ西鉄 その他1社

#### (4) 物流業(19社)

事業の内容	会社名
国際物流事業	当社、NNR・グローバル・ロジスティクス(U.S.A.)
国内物流事業	西鉄運輸(株)、西鉄物流(株) その他15社

(5) レジャー・サービス業(18社)

事業の内容	会社名
ホテル事業	当社、(株)西鉄シティホテル
旅行事業	西鉄旅行(株)
娯楽事業	当社、西鉄興業(株)、(株)海の中道海洋生態科学館
飲食事業	(株)西鉄プラザ
広告事業	(株)西鉄エージェンシー
その他サービス事業	当社、西鉄エアサービス(株) その他10社

(6) その他(11社)

事業の内容	会社名
ICカード事業	当社、(株)ニモカ
車両整備関連事業	西鉄エム・テック(株)、西鉄テクノサービス(株)
建設関連事業	西鉄建設(株)、西鉄電設工業(株)、 西鉄シー・イー・コンサルタント(株)、(株)西鉄グリーン土木
金属リサイクル事業	九州メタル産業(株) その他2社

- (注) 1 上記事業部門ごとの会社数には当社が重複して表示され、それぞれを1社として取り扱っています。  
2 上記の会社はすべて当社の連結子会社です。  
3 当社を中心とした西鉄グループにおいて、グループ経営を推進するため、定期的に西鉄グループ経営戦略会議を開催しています。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合(%)	関係内容
(連結子会社)					
筑豊電気鉄道(株)	福岡県中間市	490	運輸業	100.00	当社は第三種鉄道事業として鉄道施設を賃貸しています。また、一部土地を賃貸及び賃借しています。役員の兼任等...有
西鉄バス北九州(株)	北九州市小倉北区	450	運輸業	100.00	当社は土地、建物及び一部車両を賃貸しています。また、当社の西鉄天神バスセンターを使用しています。役員の兼任等...有
(株)福岡交通センター	福岡市博多区	400	不動産業	67.95	当社はバスターミナルを使用しています。また、当社の乗車券を受託販売しています。役員の兼任等...有
(株)スピナ	北九州市八幡東区	480	不動産業	100.00	当社の賃貸物件の管理を受託しています。役員の兼任等...有
西鉄不動産(株)	福岡市中央区	312	不動産業	100.00	当社は一部土地、建物を賃貸及び賃借しています。役員の兼任等...有
(株)西鉄ストア (注) 3	福岡市中央区	420	流通業	100.00	当社は一部土地、建物を賃貸しています。役員の兼任等...有
NNR・グローバル・ロジスティクス(U.K.)	英国 ミドルセックス	千英ポンド 1,100	物流業	100.00	当社と国際航空貨物及び国際海上貨物の取引を行っています。役員の兼任等...有
NNR・ダクサー	ドイツ バイエルン州	千ユーロ 1,533	物流業	51.00	当社と国際航空貨物及び国際海上貨物の取引を行っています。役員の兼任等...有
NNR・グローバル・ロジスティクス(U.S.A.)	米国 イリノイ州	千米ドル 1,100	物流業	100.00	当社と国際航空貨物及び国際海上貨物の取引を行っています。役員の兼任等...有
西鉄運輸(株)	福岡市博多区	100	物流業	100.00	当社は一部土地、建物を賃貸しています。役員の兼任等...有
(株)西鉄シティホテル	福岡市中央区	30	レジャー・サービス業	100.00	当社は一部土地、建物を賃貸及び賃借しています。役員の兼任等...有
西鉄旅行(株)	福岡市中央区	400	レジャー・サービス業	100.00	当社は一部土地、建物を賃貸しています。役員の兼任等...有
西鉄エム・テック(株)	福岡市博多区	60	その他	100.00	当社のバス車両整備等を行っています。また、当社は一部土地、建物を賃貸しています。役員の兼任等...有
その他 62社					
(持分法適用関連会社)					
九州急行バス(株)	福岡市博多区	90	運輸業	20.00	当社は乗車券の販売を受託しています。また、当社の西鉄天神バスセンターを使用しています。役員の兼任等...有
その他 7社					

(注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しています。  
2 上記のうち特定子会社に該当するものではありません。

3 ㈱西鉄ストアについては、営業収益(連結会社相互間の内部営業収益を除く)の連結営業収益に占める割合が10%を超えています。

営業収益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	純資産額 (百万円)	総資産額 (百万円)
65,979	524	218	4,046	16,396

(注) 営業収益には、消費税等は含まれていません。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
運輸業	7,456 (861)
不動産業	1,620 (866)
流通業	1,752 (2,807)
物流業	2,756 (115)
レジャー・サービス業	2,404 (1,190)
その他	1,542 (59)
合計	17,530 (5,898)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しています。

### (2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
4,142(159)	42.8	15.3	5,176,994

セグメントの名称	従業員数(人)
運輸業	3,020 (139)
不動産業	361 (8)
流通業	( )
物流業	667 (8)
レジャー・サービス業	67 (3)
その他	27 (1)
合計	4,142 (159)

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しています。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでいます。

### (3) 労働組合の状況

当社グループ内には、労働組合が25社において25組合組織されており、総組合員数は7,558人です。なお、提出会社の労働組合は西日本鉄道労働組合と称し、日本私鉄労働組合総連合会に加盟しています。労使間において特記すべき事項はありません。



## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国の経済は、東日本大震災の影響等による落ち込みの中で、個人消費や設備投資等一部に持ち直しの動きが見られたものの、円高や海外景気の下振れ等を背景に企業収益が低迷するなど、依然として厳しい状況が続きました。

当連結会計年度の営業収益は、物流業（国際物流事業）での海外子会社の増収や、不動産業（不動産分譲事業）でのマンション販売戸数の増加等により3,275億9百万円と、前連結会計年度に比較し36億1千7百万円（1.1%増）の増収となりました。営業利益は149億9千4百万円と前連結会計年度に比較し40億1千1百万円（36.5%増）の増益、経常利益は135億7千2百万円と前連結会計年度に比較し43億8千4百万円（47.7%増）の増益、当期純利益は、独禁法関連引当金を計上したこと等により53億9千6百万円と前連結会計年度に比較し3億8千6百万円（6.7%減）の減益となりました。

	当連結会計年度 (百万円)	前連結会計年度 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
営業収益	327,509	323,891	3,617	1.1
営業利益	14,994	10,982	4,011	36.5
経常利益	13,572	9,187	4,384	47.7
当期純利益	5,396	5,782	386	6.7

各セグメントの業績は次のとおりです。

セグメントの名称	営業収益			営業利益又は営業損失( )		
	当連結 会計年度 (百万円)	前連結 会計年度 (百万円)	増減率 (%)	当連結 会計年度 (百万円)	前連結 会計年度 (百万円)	増減率 (%)
運輸業	84,318	84,645	0.4	3,672	3,087	19.0
不動産業	52,029	50,559	2.9	9,371	7,338	27.7
流通業	74,265	76,756	3.2	704	801	12.2
物流業	70,919	67,598	4.9	1,782	985	80.9
レジャー・サービス業	35,463	34,727	2.1	113	155	-
計	316,996	314,287	0.9	15,644	12,057	29.7
その他	47,805	47,483	0.7	137	555	-
調整額	37,292	37,879	-	787	519	-
連結	327,509	323,891	1.1	14,994	10,982	36.5

なお、「第2 事業の状況」及び「第3 設備の状況」について、特に記載のない限り消費税等抜きで記載しています。

#### 運輸業

乗合バス事業で、新博多駅ビル開業に伴う輸送人員の増加があった一方、貸切バス事業の規模縮小や鉄道事業・タクシー事業での減収等により、営業収益は843億1千8百万円と前連結会計年度に比較し3億2千7百万円(0.4%減)の減収となりました。営業利益は、減価償却費の減少等により36億7千2百万円と前連結会計年度に比較し5億8千5百万円(19.0%増)の増益となりました。

なお、旅客人員は鉄道事業で1億320万9千人(前年度比0.8%減)、バス事業(乗合)で2億6,734万2千人(前年度比0.1%増)となりました。

#### イ 業種別営業収益

業種	当連結会計年度 (百万円)	前連結会計年度 (百万円)	増減率 (%)
鉄道事業	22,446	22,668	1.0
バス事業	61,540	61,533	0.0
タクシー事業	4,149	4,371	5.1
運輸関連事業	4,484	4,593	2.4
消去	8,303	8,520	-
計	84,318	84,645	0.4

バス事業の内部取引を除くと0.4%の増となります。

ロ 提出会社の鉄道事業の運輸成績

種別		単位	当連結会計年度	前連結会計年度	増減率(%)
営業日数		日	366	365	0.3
営業キロ		キロ	106.1	106.1	-
走行キロ		千キロ	40,817	40,681	0.3
旅客人員	定期	千人	52,897	52,920	0.0
	定期外	千人	45,342	46,177	1.8
	計	千人	98,239	99,097	0.9
旅客収入	定期	百万円	7,270	7,305	0.5
	定期外	百万円	12,621	12,768	1.2
	計	百万円	19,891	20,074	0.9
手小荷物・その他収入		百万円	52	48	9.6
運輸雑収		百万円	1,371	1,389	1.2
運輸収入合計		百万円	21,316	21,512	0.9
乗車効率 (注)		%	28.7	29.0	-

ハ 提出会社のバス事業の運輸成績

種別		単位	当連結会計年度	前連結会計年度	増減率(%)
営業日数		日	366	365	0.3
営業キロ		キロ	3,540.6	3,613.6	2.0
走行キロ		千キロ	100,057	103,203	3.0
旅客人員	定期	千人	69,315	70,784	2.1
	定期外	千人	112,757	111,970	0.7
	計	千人	182,072	182,754	0.4
旅客収入	定期	百万円	7,581	7,605	0.3
	定期外	百万円	26,463	26,620	0.6
	計	百万円	34,044	34,225	0.5
手荷物・その他収入		百万円	1	3	47.5
運輸雑収		百万円	2,883	2,987	3.5
運輸収入合計		百万円	36,929	37,216	0.8
乗車効率 (注)		%	16.7	16.2	-

(注) 乗車効率算出方式  $\frac{\text{延人キロ}}{1 \text{車平均定員} \times \text{走行キロ}} \times 100$

### 不動産業

不動産賃貸事業で、新規取得物件の稼働による増収があったほか、不動産分譲事業で、マンション販売戸数が増加したことやシニアマンション「サンカルナニ日市」が開業したこと等により、営業収益は520億2千9百万円と前連結会計年度に比較し14億7千万円（2.9%増）の増収となりました。営業利益は93億7千1百万円と前連結会計年度に比較し20億3千2百万円（27.7%増）の増益となりました。

#### 業種別営業収益

業種	当連結会計年度 (百万円)	前連結会計年度 (百万円)	増減率 (%)
不動産賃貸事業	26,680	26,385	1.1
不動産分譲事業	18,020	16,782	7.4
その他不動産事業	9,596	9,528	0.7
消去	2,267	2,137	-
計	52,029	50,559	2.9

### 流通業

ストア事業で、(株)あんくるふじやの連結子会社化による増収（当連結会計年度決算対象4ヶ月）があった一方、(株)西鉄ストアでの前連結会計年度における決算期変更の影響（前連結会計年度決算対象13ヶ月）や競合店の影響等により、営業収益は742億6千5百万円と前連結会計年度に比較し24億9千万円（3.2%減）の減収となりました。営業利益は7億4百万円と前連結会計年度に比較し9千7百万円（12.2%減）の減益となりました。

#### 業種別営業収益

業種	当連結会計年度 (百万円)	前連結会計年度 (百万円)	増減率 (%)
ストア事業	74,321	76,813	3.2
消去	56	57	-
計	74,265	76,756	3.2

### 物流業

国際物流事業で、海外子会社での増収や燃油サーチャージの高止まり等により、営業収益は709億1千9百万円と前連結会計年度に比較し33億2千1百万円（4.9%増）の増収となりました。営業利益は、原価の低下等もあり17億8千2百万円と前連結会計年度に比較し7億9千6百万円（80.9%増）の増益となりました。

#### 業種別営業収益

業種	当連結会計年度 (百万円)	前連結会計年度 (百万円)	増減率 (%)
国際物流事業	69,496	66,973	3.8
国内物流事業	10,867	9,515	14.2
消去	9,444	8,890	-
計	70,919	67,598	4.9

### レジャー・サービス業

ホテル事業で、「ソラリア西鉄ホテル銀座」や「西鉄リゾートイン那覇」等の開業や、その他サービス事業（空港ハンドリング業務他）での増収等により、営業収益は354億6千3百万円と前連結会計年度に比較し7億3千5百万円（2.1%増）の増収となりました。営業利益は、当連結会計年度前半においてホテル事業での震災の影響がありましたが、旅行事業等での業績の回復等により1億1千3百万円となりました。

#### 業種別営業収益

業種	当連結会計年度 (百万円)	前連結会計年度 (百万円)	増減率 (%)
ホテル事業	16,972	15,569	9.0
旅行事業	4,397	4,580	4.0
娯楽事業	3,143	3,337	5.8
飲食事業	4,056	4,168	2.7
広告事業	7,290	7,281	0.1
その他サービス事業	5,193	4,668	11.3
消去	5,589	4,878	-
計	35,463	34,727	2.1

ホテル事業の内部取引を除くと6.0%の増となります。

### その他

建設資材事業での受注増等により、営業収益は478億5百万円と前連結会計年度に比較し3億2千1百万円（0.7%増）の増収となりました。営業利益は、前連結会計年度におけるバス車体製造事業の廃止に伴う損失の解消等により1億3千7百万円となりました。

#### 業種別営業収益

業種	当連結会計年度 (百万円)	前連結会計年度 (百万円)	増減率 (%)
ICカード事業	723	624	15.7
車両整備関連事業	27,583	28,500	3.2
建設関連事業	16,430	17,262	4.8
金属リサイクル事業	3,863	4,771	19.0
消去	795	3,675	-
計	47,805	47,483	0.7

## (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ69億5千9百万円増加し332億7千6百万円となりました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益106億3千1百万円、減価償却費205億7千万円等により300億2千1百万円となり、前連結会計年度に比べ7億2千万円の収入増となりました。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出179億3千8百万円、工事負担金等受入による収入20億1千7百万円等により160億4千3百万円となり、前連結会計年度に比べ70億9千万円の支出減となりました。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の純減による支出38億5千8百万円、配当金の支払額23億7千3百万円等により68億5千5百万円となり、前連結会計年度に比べ1億9千3百万円の支出減となりました。

(注) 「営業活動」及び「投資活動」による各キャッシュ・フローについては、消費税等が含まれています。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

当社グループの各事業において提供するサービスや製品は多種多様であり、同じセグメント内のサービスや製品であっても、その内容、形式等は必ずしも一様ではないため、生産、受注及び販売の実績について、セグメントごとに生産規模あるいは数量で示すことはしていません。

そのため、生産、受注及び販売の状況については、「1 業績等の概要」における各セグメント業績に関連付けて示しています。

### 3 【対処すべき課題】

#### (1) 当社グループが対処すべき課題

当社グループを取り巻く経営環境は、電力供給の不安や原油価格の高騰のほか、欧州金融危機による経済情勢の先行き不安等、依然として厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況のもと、当社グループは、第12次中期経営計画で掲げた施策の着実な実行による収益力の強化や、成長ステップに向けた新たなビジネスモデルの開拓に取り組んでまいります。また、当社グループ事業の根幹である安全の確保に努めるとともに、CSの向上や環境負荷低減活動の実施等、CSR経営の一層の推進に取り組んでまいります。

なお、各セグメントにおける具体的な取り組みにつきましては、次のとおりです。

#### 運輸業

鉄道事業では、高架橋の耐震強化工事を継続して行うなど、安全を最優先した輸送サービスの提供に取り組んでまいります。また、バスや商業施設のほか、地域と連携した企画乗車券を販売するなど、収益力の強化に努めてまいります。さらに、列車種別や行き先を示す「旅客案内装置」の更新を行うとともに、駅施設のバリアフリー化を進めるなど、利便性の向上を図ってまいります。

バス事業では、「完全輸送運動」を引き続き推進するなど、安全の確保に取り組んでまいります。また、天神バスセンターのリニューアルを行うほか、新しい高速バス予約システムを導入するなど、高速バスの利便性向上や競争力強化を図ってまいります。さらに、コミュニティバスの運行をはじめとする地域と連携した取り組みを進めてまいります。そのほか、ハイブリッドバスの導入を進めるなど、環境負荷低減に努めてまいります。

#### 不動産業

不動産賃貸事業では、商業施設のリニューアルを行うほか、「We Love 天神協議会」等の地域で活動する団体と連携した取り組みを行うなど、天神地区の集客力強化に努めてまいります。また、本年6月に「西鉄日本橋ビル」を竣工するなど、収益力の強化を図ってまいります。

不動産分譲事業では、福岡都市圏に加え、他社との連携により福岡県外においても物件の開発・販売を行ってまいります。また、シニアマンション「サンカルナ小倉大手町」の建設を進めてまいります。さらに、1棟リノベーション分譲マンション「サンリベラ」の販売を開始するなど、既存住宅のリノベーション再販事業の拡大を進め、収益力の強化に努めてまいります。

#### 流通業

ストア事業では、既存店舗のリニューアルやスクラップ&ビルドを推進するなど、収益力の強化に努めてまいります。また、ネットスーパーをはじめとする「お買い物代行サービス」の導入等、利便性の向上を図ってまいります。

## 物流業

国際物流事業では、中国、メキシコ、ベルギー等に営業拠点の新設を進めるなど、国際ネットワークの拡充を図ってまいります。また、海運定期混載便の仕向地をオランダ、ベトナム、英国等に拡大するほか、海運事業およびロジスティクス事業において営業体制を強化するなど、貨物取扱量の増大に努めてまいります。

## レジャー・サービス業

ホテル事業では、本年5月に宿泊主体型アップグレードホテル2店舗目となる「ソラリア西鉄ホテル鹿児島」を開業したほか、営業体制の強化を図るなど、収益力の向上に努めてまいります。

旅行事業では、スポーツ関連の取扱い拡大やインターネット販売の強化等、収益力の強化を図ってまいります。

## その他

各事業におきまして、営業活動の強化と業務の効率化を図ってまいります。

以上のほか、ICカード関連では、平成25年春の交通系ICカードの全国相互利用サービス開始に向けた準備を進めてまいります。

## (2) 目標とする経営指標

「西鉄グループ第12次中期経営計画」において設定した数値目標は次のとおりです。

	平成25年3月期計画
営業利益	171億円
ROA(総資産営業利益率)	4.5%
ROE(株主資本当期純利益率)	7.3%

- (注) 1 総資産はその他有価証券の時価評価による影響額及び鉄道の受託工事前受金相当額を除いて算出しています。
- 2 株主資本は純資産合計からその他有価証券の時価評価による影響額及び少数株主持分を除いて算出しています。



### (3) 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

#### 基本方針の内容の概要

当社は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を理解し、当社が企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保・向上していくことを可能とする者である必要があると考えます。

当社は、当社株式について大量買付がなされる場合、これが当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。また、株式会社の支配権の移転を伴う買付提案についての判断は、最終的には株主の皆様全体の意思に基づき行われるべきものと考えています。

しかしながら、株式の大量買付の中には、その目的等から見て企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれがあるもの等、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社株式の買付けを行う者が当社の企業価値の源泉を理解し、これらの中長期的に確保し、向上させられるのであれば、当社の企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることとなります。当社は、このような当社の企業価値・株主共同の利益に資さない大量買付を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による大量買付に対しては、必要かつ相当な対抗措置を採ることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えております。

#### 基本方針実現のための取り組みの具体的内容の概要

##### ア．基本方針の実現に資する特別な取り組みの概要

変化の激しい時代にあって、当社が企業価値を安定的かつ持続的に向上させていくためには、地域の交通機関として利用者および地域社会に支持され、より存在感のある企業グループとして発展していくことが必要です。そのために、当社は、「『出逢いをつくり、期待をはこぶ』事業を通して、“あんしん”と“かいてき”と“ときめき”を提供しつづけ、地域とともに歩み、ともに発展します。」という「にしてつグループの企業理念」に基づき、お客様の期待に応え、何より安全で、良質なサービスを提供し続けていくこと、人間性を尊重し、人を活かし育む「人を活かす経営」を実践していくこと、時代の要請を的確にとらえ、社会の共感を得られる新しい事業価値を創造していくこと、個性や自立性を尊重し、連携、協働しあってグループの総合力を発揮していくことに努めております。

当社では、創立100周年を迎えた平成20年に「にしてつグループ将来ビジョン2018『弛まぬ変革』 - 高品質・高付加価値の追求 - 」(以下「にしてつグループ将来ビジョン2018」といいます。)を策定しました。これは「にしてつグループの企業理念」のもと、およそ10年後に目指すグループ像として長期的な経営の方向性を描いたもので、具体的には、交通事業・街づくり事業・流通事業を核とした「地域マーケットビジネス」の深化と、航空貨物事業を軸にした「国際物流ビジネス」の拡大を機軸とし、これらのビジネスとのシナジー効果を追求する中で新しい事業価値を生み出しながら、さらなる成長を目指すものです。

また、当社では、平成22年度からの3ヵ年計画である「西鉄グループ第12次中期経営計画」を策定し、その達成に取り組んでいるところです。にしてつグループ将来ビジョン2018実現に向けた基盤づくりにあたる本計画では、“変革に挑む西鉄グループ”をビジョンに掲げ、ステークホルダーであるお客様・株主を重視しながら、収益力の強化と企業価値の向上を目指しております。また、CSR経営の更なる深化にも取り組み、お客様の安全を最優先に位置づけ、地域や社会との共生を進めており

ます。

そのほか、当社では、株主の皆様に対する経営陣の責任の所在を明確化するため、取締役の任期を1年としているほか、従来より業務執行を行う経営陣から独立した社外取締役を2名選任しております。また、監査役につきましても、独立性のある社外監査役を2名選任しております。当社は、このように、社外取締役と社外監査役による当社経営に対する監督・監視機能の充実を図り、透明性の高い経営を実現するなど、コーポレート・ガバナンスの一層の強化を図っております。

#### イ. 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みの概要

当社は、平成24年5月10日開催の取締役会において、株主の皆様の承認を条件として、「当社株式の大量取得行為に関する対応策」を従前の内容を一部改定のうえ更新することを決議し、本年6月28日開催の第172期定時株主総会（以下「第172期定時株主総会」といいます。）において、当該対応策を更新することの承認を得ております（以下、変更後の当該対応策を「本プラン」といいます。）。

当社取締役会は、基本方針に定めるとおり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さない当社株券等の大量買付を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えています。本プランは、こうした不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する大量買付を抑止するとともに、大量買付が行われる際に、当社取締役会が株主の皆様に変更案を提案したり、あるいは株主の皆様がかかる大量買付に応じるべきか否かを判断するために必要な情報や時間を確保すること、株主の皆様のために交渉を行うこと等を可能とすることを目的としています。

本プランは、当社株券等の20%以上を買収しようとする者が現れた際に、買収者に事前の情報提供を求める等、上記の目的を実現するために必要な手続を定めております。

買収者は、本プランに係る手続に従い、当社取締役会において本プランを発動しない旨が決定された場合に、当該決定時以降に限り当社株券等の大量買付を行うことができるものとされています。

買収者が本プランに定められた手続に従わない場合や当社株券等の大量買付が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれがある場合等で、本プラン所定の発動要件を満たす場合等には、当社は、買収者等による権利行使は原則として認められないとの行使条件および当社が買収者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得できる旨の取得条項が付された新株予約権に係る新株予約権無償割当てその他の法令および当社定款の下でとりうる合理的な施策を実施します。

本プランに従って新株予約権の無償割当てがなされ、その行使または当社による取得に伴って買収者以外の株主の皆様が当社株式が交付された場合には、買収者の有する当社の議決権割合は、約2分の1まで希釈化される可能性があります。

当社は、本プランに従った新株予約権の無償割当ての実施、不実施または取得等の判断については、取締役の恣意的判断を排するため、当社経営陣から独立した社外取締役等のみから構成される独立委員会を設置し、その客観的な判断を経るものとしております。また、当社取締役会は、これに加えて、本プラン所定の場合には、株主総会を招集し、新株予約権の無償割当て等の実施に関する株主の皆様意思を確認することがあります。

こうした手続の過程については、適宜株主の皆様に対して情報開示がなされ、その透明性を確保することとしております。

本プランの有効期間は、原則として、第172期定時株主総会終結後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までです。

#### 具体的取り組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

当社のにしてつグループ将来ビジョン2018、第12次中期経営計画およびコーポレート・ガバナンスの強化のための上記施策は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、まさに上記基本方針の実現に資するものです。したがって、これらの取り組みは、上記基本方針に沿い、当社の株主共同の利益に合致するものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

また、本プランは、当社株券等に対する買付等がなされた際に、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させる目的をもって導入されたものであり、同じく上記基本方針に沿うものです。さらに、本プランは、「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則を全て充足していること、第172期定時株主総会において株主の承認を得たうえ更新されたものであること、本プランの発動に際しての実質的な判断は、経営陣から独立した社外取締役等のみから構成される独立委員会により行われること、独立委員会は当社の費用で独立した第三者専門家等の助言を受けることができるものとされていること、本プランの内容として発動に関する合理的かつ客観的な要件が設定されていること、有効期間が約3年間と定められたうえ、当社株主総会により廃止できるものとされていること、さらに、当社取締役の任期は1年とされていること等により、その公正性・客観性が担保されております。したがって、本プランは、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

#### 4 【事業等のリスク】

当社グループは多岐にわたる事業を営んでおり、各事業においてリスク回避を行うほか、当社が資産・資金を保有・調整することで、グループ全体に大きな影響を及ぼすことにならないよう努めていますが、財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性のあるリスクとしては、主として以下のようなものがあります。なお、これらのリスク及び「7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」のうち将来に関する記述は、有価証券報告書提出日（平成24年6月28日）現在において入手可能な情報に基づき、当社グループが判断したものであり、実際の業績等はこれらの見通しとは異なることがあります。

##### (1) 法的規制等

鉄道事業は鉄道事業法、バス事業は道路運送法、不動産業は建築基準法の適用を受けるなど、当社グループ各社が営む事業の多くは所管法令による規制を受けており、事業運営上、一定の事項について制限を受けるほか、法改正が業績に影響を与える可能性があります。

また、法令に関わらず、国や地方公共団体の交通政策等の変更が業績に影響を与える可能性があります。

##### (2) 事故、災害等

当社グループは、鉄道、バス、ホテル及び商業施設等、多数のお客様が利用される施設を数多く保有しています。このため、安全性の確保を最優先とし、保安施設や防災設備の整備・管理に努めるとともに危機管理体制の構築に取り組んでいますが、事故や火災のほか地震等の自然災害が発生した場合、業績に影響を与える可能性があります。

また、当社グループの事業エリアにおいて、新型ウィルス等の疾病が発生・流行した場合、業績に影響を与える可能性があります。

##### (3) コンプライアンス違反

当社グループではコンプライアンス体制の整備、充実に努めていますが、独占禁止法等の法令違反、個人情報等の漏洩等の不祥事が発生した場合、信用失墜による売り上げ減少、罰則金支払、損害賠償請求により業績に影響を与える可能性があります。

##### (4) 国際情勢の変化

海外におけるテロや紛争の発生、外交関係の悪化等によって、国際物流事業における業務の停滞や旅行業における海外旅行商品の買い控え等が生じた場合、業績に影響を与える可能性があります。

##### (5) 少子高齢化

わが国は近年少子高齢化が進んでおり、今後就業・就学人口が減少することが予想されています。少子高齢化の進行は、当社グループの鉄道事業及びバス事業の輸送人員の減少を招くなど、業績に影響を与える可能性があります。

##### (6) 保有資産の時価下落等

当社グループが保有するたな卸資産、有形・無形固定資産及び投資有価証券等について、時価の著しい下落や収益性の低下等が生じた場合、減損損失又は評価損の計上により、業績に影響を与える可能性があります。

(7) 退職給付債務及び費用

当社グループの退職給付債務及び費用は、主に割引率、年金資産の期待運用収益率等の数理計算上の前提条件に基づいて算出されているため、前提条件に変更があった場合又は実際の結果が前提条件と異なる場合、数理計算上の差異としてそれ以降の業績に影響を与える可能性があります。

(8) エネルギー、資材等の調達

巨大な自然災害の発生等により電力、燃料、建設資材、商品等の調達が困難となる場合、調達価格が高騰した場合、または使用が制限される場合、鉄道事業、バス事業、不動産業及び流通業等の業績に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において、経営上の重要な契約等はありません。

6 【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しています。この連結財務諸表の作成にあたって、経営者は、決算日における資産・負債及び報告期間における収益・費用の金額並びに開示に影響を与える見積りを行わなければなりません。これらの見積りについては、過去の実績、現在の状況に応じ合理的に判断を行っていますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

### (2) 当連結会計年度の財政状態の分析

#### (資産)

資産は、現金及び預金や販売土地及び建物の増加等により4,124億3千8百万円と前連結会計年度末に比較して154億8千7百万円の増加となりました。

#### (負債)

負債は、支払手形及び買掛金や未払法人税等の増加等により3,027億7千1百万円と前連結会計年度末に比較して124億2千5百万円の増加となりました。

#### (純資産)

純資産は、当期純利益の計上等による利益剰余金の増加等により1,096億6千7百万円と前連結会計年度末に比較して30億6千2百万円の増加となりました。

### (3) 当連結会計年度の経営成績の分析

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、全般的には、前半における東日本大震災の影響、原油価格の高騰、各事業における競争の激化等、厳しい環境の下で推移しました。営業収益は、国際物流事業での海外子会社の増収や、不動産分譲事業でのマンション販売戸数の増加等により3,275億9百万円と、前連結会計年度に比較し36億1千7百万円（1.1%増）の増収となりました。営業利益は、営業収益の増加に加え、各社、各事業において事業構造の見直しや効率化に努めた結果149億9千4百万円と前連結会計年度に比較し40億1千1百万円（36.5%増）の増益、経常利益は135億7千2百万円と前連結会計年度に比較し43億8千4百万円（47.7%増）の増益、当期純利益は、独禁法関連引当金を計上したこと等により53億9千6百万円と前連結会計年度に比較し3億8千6百万円（6.7%減）の減益となりました。

### (4) 当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況の分析

「1 業績等の概要 (2)キャッシュ・フロ - 」に記載のとおりです。

### (5) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループを取り巻く経営環境は、各事業における競争の激化や電力供給の制限、原油価格の高騰のほか、欧州金融危機による経済情勢の変化等、様々な要因によって左右されます。

これらの経営環境を踏まえて、当社グループでは「3 対処すべき課題」に掲げた諸施策を着実に実施することで、事業基盤の構築を図ってまいります。

## 第3 【設備の状況】

### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、当社グループ全体で185億9千3百万円の設備投資を行いました。なお、設備投資の金額には、無形固定資産への投資額を含めて記載しています。

各セグメントの設備投資は次のとおりです。

#### 運輸業

鉄道事業では、当社の天神大牟田線において老朽化に伴う変電所の建替えを行ったほか、旅客案内装置の更新を進めました。バス事業では、当社及び西鉄バス北九州(株)等においてバス車両166両を新造しました。

以上の結果、運輸業では88億8千1百万円の設備投資を行いました。

#### 不動産業

不動産賃貸事業では、当社において「西鉄日本橋ビル」の建設を進めたほか、「天神コア」のリニューアル工事を行いました。不動産分譲事業では、当社において「サンカルナ小倉大手町」の建設を進めたほか、「サンカルナ二日市」が竣工しました。

以上の結果、不動産業では49億1千9百万円の設備投資を行いました。

#### 流通業

ストア事業では、(株)西鉄ストアにおいて「にしてつストア牛頸店」の土地・建物の取得を行ったほか、「スピナ穴生中央店」の新規出店や既存店の店舗改装を行いました。

以上の結果、流通業では15億9千2百万円の設備投資を行いました。

#### 物流業

物流業では、当社及び西鉄運輸(株)等において営業車両の代替・増車をを行いました。

以上の結果、物流業では4億9千6百万円の設備投資を行いました。

#### レジャー・サービス業

ホテル事業では、当社において「ソラリア西鉄ホテル銀座」、「西鉄リゾートイン那覇」が竣工したほか、(株)西鉄シティホテルにおいて「西鉄グランドホテル」の1階レストラン区画の改装を行いました。

以上の結果、レジャー・サービス業では28億5千8百万円の設備投資を行いました。

#### その他

その他では、フォークリフト販売業の福岡小松フォークリフト(株)において、リース・レンタル用としてフォークリフトを121台購入しました。

以上の結果、その他では6億8千6百万円の設備投資を行いました。

## 2 【主要な設備の状況】

当社グループ(当社及び連結子会社)の平成24年3月31日現在におけるセグメントごとの設備の概要、帳簿価額及び従業員数は次のとおりです。

### (1) セグメント総括表

セグメントの 名称	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)
	建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	建設仮勘定	その他	合計	
運輸業	51,970	14,919	23,948 (2,696)	6,694	1,016	98,550	7,456
不動産業	79,185	470	38,427 (870)	1,932	857	120,874	1,620
流通業	5,936	66	2,074 (29)	37	1,125	9,240	1,752
物流業	3,666	235	2,858 (57)		589	7,350	2,756
レジャー・ サービス業	20,816	340	19,400 (167)	61	1,159	41,778	2,404
小計	161,575	16,032	86,709 (3,820)	8,726	4,749	277,793	15,988
その他	1,235	920	1,847 (93)	41	240	4,286	1,542
調整額	2,497	881	1,564 ( )	82	27	5,053	
合計	160,313	16,072	86,992 (3,913)	8,685	4,962	277,026	17,530

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は工具・器具・備品及びリース資産です。

2 上記のほかに主な賃借設備として次のものがあります。

(提出会社)

事業所名 〔所在地〕	セグメントの 名称	設備の内容	従業員数 (人)	賃借面積(㎡)		年間賃借料 (百万円)
				建物及び 構築物	土地	
西鉄イン福岡 〔福岡市中央区〕 (注)	レジャー・ サービス業	ホテル及び 飲食店		12,470		120
西鉄イン高知 はりまや橋 〔高知県高知市〕	レジャー・ サービス業	ホテル		6,381		120

(注) 毎日福岡会館の一部を賃借しています。

(国内子会社)

会社名	事業所名 〔所在地〕	セグメントの 名称	設備の内容	従業員数 (人)	賃借面積(㎡)		年間賃借料 (百万円)
					建物及び 構築物	土地	
㈱海の中道 海洋生態科学館	マリンワールド 海の中道 〔福岡市東区〕	レジャー・ サービス業	水族館	56 (31)	21,322	31,000	167

(注) 従業員数欄の( )内には、臨時従業員数を外数で記載しています。



セグメントの状況については次のとおりです。なお、賃借(リースを含む)設備については、特に記載のない限り、連結会社からのものは〔 〕、連結会社以外からのものは( )内に外数で記載しています。

(2) 運輸業(従業員数7,456人)

鉄道事業

(提出会社)

イ 線路及び電路施設

線名	区間	単線、複線の別	営業キロ (km)	駅数 (カ所)	変電所数 (カ所)
天神大牟田線	西鉄福岡(天神)～大牟田	単線及び複線	74.8	49	12
	西鉄二日市～太宰府	単線	2.4	2	
	甘木～宮の陣	単線	17.9	11	1
貝塚線	貝塚～西鉄新宮	単線	11.0	10	1
合計			106.1	72	14

(注) 各線とも動力は電気です。

ロ 車両

電動客車(両)	制御電動客車(両)	制御客車(両)	付随客車(両)	合計(両)
110	72	134	13	329

(注) 1 上記車両以外に特殊車2両、マルチプルタイタンパー1両を保有しています。

2 車庫及び工場

事業所名	所在地	建物及び構築物 帳簿価額 (百万円)	土地		摘要
			面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	
筑紫工場 筑紫車庫	福岡県 筑紫野市	581	101,567	808	
多々良工場 多々良車庫	福岡市 東区	42	25,668	1,282	
柳川車庫	福岡県 柳川市	88	23,269	18	

(国内子会社)

イ 線路及び電路施設

会社名	区間	単線、複線の別	営業キロ (km)	駅数 (カ所)	変電所数 (カ所)
筑豊電気鉄道(株)	熊西～筑豊直方	複線	15.4	18	3
	黒崎駅前～熊西	複線	0.6	{ 3 }	{ 1 }
合計			16.0	18 { 3 }	3 { 1 }

(注) 1 動力は電気です。

2 黒崎駅前～熊西間における線路及び電路施設、{ }内の駅・変電所は当社(提出会社)の保有資産です。

ロ 車両

会社名	電動客車(両)	付随客車(両)	合計(両)
筑豊電気鉄道(株)	32	7	39

(注) 車庫及び工場

会社名	事業所名	所在地	建物及び 構築物 帳簿価額 (百万円)	土地		摘要
				面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	
筑豊電気鉄道(株)	楠橋車庫	北九州市 八幡西区	2	4,653	2	
	黒崎工場 黒崎車庫	北九州市 八幡西区		{ 5,774 }		(注)

(注) 黒崎工場及び黒崎車庫は、当社(提出会社)の保有資産です。

バス事業  
(提出会社)

事業所名	所在地	建物及び構築物	土地		在籍車両数			摘要
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	一般乗合 (両)	一般貸切 (両)	計 (両)	
那珂川自動車営業所	福岡県筑紫郡那珂川町	42	13,900	128	144	5	149	
桧原自動車営業所	福岡市南区	59	10,171	18	127	6	133	
杵岐自動車営業所	福岡市西区	19	11,716	21	124	1	125	
早良自動車営業所	福岡市早良区	45	13,166	122	114	5	119	
片江自動車営業所	福岡市城南区	28	14,877	69	94	3	97	
愛宕浜自動車営業所	福岡市西区	83	11,337	412	85	1	86	
土井自動車営業所	福岡市東区	40	11,061	37	81	4	85	
金武自動車営業所	福岡市西区	105	10,059	14	79	5	84	
柏原自動車営業所	福岡市南区	36	6,583	0	68	2	70	
福岡高速営業所	福岡市中央区	76	11,524	156	69		69	

(注) 車両は上記のものを含め、一般乗合1,860両、一般貸切46両を保有しています。そのほか連結子会社への賃貸用として663両を保有しています。

(国内子会社)

会社名・事業所名	所在地	建物及び構築物	土地		在籍車両数			摘要
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	一般乗合 (両)	一般貸切 (両)	計 (両)	
亀の井バス(株)別府営業所	大分県別府市	37	14,540	93	87	26	113	
西鉄バス北九州(株)八幡自動車営業所	北九州市八幡西区		{ 5,059 }		45 { 32 }	1 { 2 }	46 { 34 }	
西鉄バス北九州(株)香月自動車営業所	北九州市八幡西区		{ 11,381 }		34 { 42 }	1	35 { 42 }	
西鉄バス北九州(株)小倉自動車営業所	北九州市小倉北区		{ 18,039 }		40 { 28 }	1	41 { 28 }	
西鉄バス北九州(株)戸畑自動車営業所	北九州市戸畑区		{ 7,541 }		30 { 36 }	{ 1 }	30 { 37 }	

(注) 車両は上記のものを含め、一般乗合409両、一般貸切238両を保有しています。

タクシー事業  
(国内子会社)

会社名・事業所名	所在地	建物及び構築物	土地		在籍車両数						摘要
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	小型 (両)	中型 (両)	大型 (両)	特定 大型 (両)	福祉 (両)	計 (両)	
久留米西鉄タクシー(株) 八軒屋営業所	福岡県 久留米市	18	1,126 (1,675) 〔2,367〕	18	122		2	4	3	131	
北九西鉄タクシー(株) 中央営業所	北九州市 八幡東区	16	〔4,073〕		104 (5)	3	(1)			107 (6)	
福岡西鉄タクシー(株) 大楠営業所	福岡市 南区	48	3,068	10	95	1 〔1〕	3 〔2〕			99 〔3〕	
福岡西鉄タクシー(株) 西営業所	福岡市 西区	6	2,978	37	61	〔3〕				61 〔3〕	
柳川西鉄タクシー(株) 柳川営業所	福岡県 柳川市	0	(1,799)		34			2		36	

(注) 車両は上記のものを含め、小型511両、中型2両、大型5両、特定大型6両、福祉3両を保有しています。

(2) 不動産業(従業員数1,620人)

不動産賃貸事業

(提出会社)

事業所名	所在地	建物及び構築物		土地		摘要
		賃貸面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	
ソラリアターミナルビル	福岡市 中央区	50,446	13,960	8,137 〔894〕	3,490	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階から地上1階、 鉄骨造地上2階から9階 (注)
ソラリアプラザビル	福岡市 中央区	36,299	4,054	4,894 〔823〕	61	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階、鉄骨造地上18 階建
チャチャタウン小倉	北九州市 小倉北区	22,154	2,488	21,016	155	鉄骨造地上5階建
福岡ビル	福岡市 中央区	19,108	3,232	3,723	926	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階地上11階建
西鉄薬院駅ビル	福岡市 中央区	15,885	2,657	3,042	567	鉄骨造(一部鉄骨鉄筋コ ンクリート造)地上14階 建、塔屋1階建
西新パレスビル	福岡市 早良区	12,575	539	107 〔5,282〕	0	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上4階建
ソラリアステージビル	福岡市 中央区	11,637	9,167	4,381	16	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階地上9階建 (注)
西鉄平尾駅ビル	福岡市 中央区	11,081	2,469	1,251	3,298	鉄筋コンクリート造(一 部鉄骨鉄筋コンクリート 造)地下1階地上17階建
天神コアビル	福岡市 中央区	11,029	3,275	2 (224) 〔2,007〕	0	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階地上10階建
西鉄祇園ビル	福岡市 博多区	9,332	994	2,409	4	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上12階建

(注) 土地は運輸業資産を記載しています。

(国内子会社)

会社名・事業所名	所在地	建物及び構築物		土地		摘要
		賃貸面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	
(株)福岡交通センター 博多バスターミナル	福岡市 博多区	20,047	7,420	5,338	605	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上9階建
(株)スピナ プラント事業部ビル	北九州市 戸畑区	14,868	398	(4,161)		鉄骨造地上7階建他
(株)スピナ ヘルスセンタービル	北九州市 八幡東区	10,631	106	25,535 (5,409)	251	鉄骨造地上2階建他
(株)スピナ 鞘ヶ谷パーク	北九州市 戸畑区	9,056	777	33,853	2,594	鉄骨造地上2階建他

(3) 流通業(従業員数1,752人)

ストア事業

(国内子会社)

会社名・事業所名	所在地	売場面積 (㎡)	建物及び 構築物	土地		摘要
			帳簿価額 (百万円)	面積(㎡)	帳簿価額 (百万円)	
(株)西鉄ストア にしてつストア東郷店	福岡県 宗像市	8,810	120	(9,763)		鉄筋コンクリート造 地上4階建
(株)インキューブ西鉄 インキューブ天神店	福岡市 中央区	5,792	172			ソラリアステージビ ル内
(株)西鉄ストア にしてつストア朝倉街道店	福岡県 筑紫野市	5,603	139	1,081 (11,456)	148	鉄骨造地上2階建
(株)西鉄ストア にしてつストア太宰府店	福岡県 太宰府市	5,346	327	3,450 (7,963)	216	鉄骨鉄筋コンクリー ト造地下1階地上2 階建
(株)西鉄ストア にしてつストア中尾店	福岡市 南区	3,082	100	(4,602)		鉄骨造地上2階建

(4) 物流業(従業員数2,756人)

国際物流事業

(提出会社)

事業所名	所在地	建物及び 構築物	土地		摘要
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	
成田ロジスティクス センター	千葉県山武郡 芝山町	1,537	14,950	0	鉄筋コンクリート造 地上6階建
辰巳ロジスティクス センター	東京都 江東区	349	5,400	14	鉄筋コンクリート造 地下1階地上5階建
りんくうロジスティクス センター	大阪府 泉佐野市	449	4,619	958	鉄骨造(一部鉄骨鉄筋 コンクリート造)地上 5階建
原木ロジスティクス センター	千葉県 市川市	288	3,872	251	鉄筋コンクリート造 地上7階建
西淀ロジスティクス センター	大阪市 西淀川区	231	1,221	97	鉄筋コンクリート造 地上6階建

(在外子会社)

会社名・事業所名	所在地	建物及び構築物	土地		摘要
		帳簿価額	面積	帳簿価額	
NNR・グローバル・ロジスティクス(U.K.)本社	英国 ミドルセックス	千英ポンド 313	m <sup>2</sup> 1,496	千英ポンド 184	鉄骨コンクリート造地上2階建
NNR・グローバル・ロジスティクス(U.S.A.)シカゴオフィス	米国 イリノイ州	千米ドル 209	m <sup>2</sup> 4,189	千米ドル 284	鉄骨造地上1階建

国内物流事業

(国内子会社)

会社名・事業所名	所在地	建物及び構築物	土地		在籍車両数						摘要
		帳簿価額(百万円)	面積(m <sup>2</sup> )	帳簿価額(百万円)	3トン以下(両)	10トン以下(両)	11トン(両)	25トン以下(両)	その他大型車(両)	計(両)	
西鉄運輸(株)福岡支店	福岡県糟屋郡志免町	2	(3,583)		12(2)	29(6)	9	4		54(8)	
西鉄物流(株)千葉支店	千葉県市川市		988(2,162)	96	14	8	4	2	2	30	

(注) 車両は上記のものを含め、3トン以下64両、10トン以下93両、11トン22両、25トン以下38両、その他大型車3両を保有しています。

(5) レジャー・サービス業(従業員数2,404人)

ホテル事業  
(提出会社)

会社名・事業所名	所在地	建物及び構築物		土地		摘要
		延床面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	
西鉄イン博多	福岡市 博多区	13,194	2,021	5,223	5,028	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上14階建 客室数503室
西鉄イン福岡	福岡市 中央区	(12,470)	117			鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上16階建 客室数266室
西鉄イン小倉	北九州市 小倉北区	6,358 〔5,734〕	1,322	474 〔1,911〕	312	(本館)鉄筋コンクリート造 地上11階建 (新館)鉄骨鉄筋コンクリート造 地上13階建 客室数570室
西鉄イン新宿	東京都 新宿区	8,060	1,072	1,251	2,825	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上14階建 客室数302室
西鉄イン高知はりまや橋	高知県 高知市	(6,381)	135			鉄骨鉄筋コンクリート造 地上14階建 客室数250室
ソラリア西鉄ホテル銀座	東京都 中央区	6,280	2,131	627 ( 37)	7,362	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上13階建 客室数209室

(国内子会社)

会社名・事業所名	所在地	建物及び構築物		土地		摘要
		延床面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	
(株)西鉄シティホテル 西鉄グランドホテル	福岡市 中央区	24,018	4,135	5,426 〔 961〕	139	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下2階地上14階建 客室数280室
(株)西鉄シティホテル ソラリア西鉄ホテル	福岡市 中央区	〔16,986〕	1,070			ソラリアプラザビル内 客室数173室

娯楽事業  
(提出会社)

事業所名	所在地	建物及び構築物	土地		摘要
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	
かしいかえん シルバニア ガーデン	福岡市 東区	430	123,471	598	遊園地施設

(国内子会社)

会社名・事業所名	所在地	建物及び構築物	土地		摘要
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	
西鉄興業(株) 西新パレスドーム	福岡市 早良区	56	1,045	650	鉄骨鉄筋造地上2階建

(6) その他(従業員数1,542人)

(国内子会社)

会社名・事業所名	所在地	建物及び構築物	土地		摘要
		帳簿価額 (百万円)	面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	
西鉄テクノサービス(株) 久留米営業所	福岡県 久留米市	8	12,098	87	鉄骨造地上2階建
西鉄電設工業(株) 福岡支店	福岡市 博多区	74	2,150	476	鉄骨造地上3階建
西鉄電設工業(株) 鉄道本部	福岡県 筑紫野市	26	1,722	103	鉄骨造地上2階建



### 3 【設備の新設、除却等の計画】

#### (1) 重要な設備の新設等

(提出会社)

件名	セグメントの 名称	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完成 予定年月
		総額 (百万円)	既支払額 (百万円)			
西鉄日本橋ビル建設	不動産業	6,687	5,918	自己資金 及び 借入金	平成21年6月	平成24年6月
天神大牟田線 春日原～下大利駅間連続立体交差工事	運輸業	4,014	1,095		平成16年3月	平成34年3月
天神大牟田線 雑餉隈駅付近連続立体交差工事	運輸業	3,689	138		平成22年11月	平成36年3月
(仮称)ラクレイス地行建設	不動産業	2,811	-		平成24年10月	平成26年8月
バス車両新造(乗合122両)	運輸業	2,471	-		平成24年4月	平成25年3月
サンカルナ小倉大手町建設	不動産業	2,139	237		平成23年5月	平成25年6月

(国内子会社)

会社名	件名	セグメントの 名称	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完成 予定年月
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)			
(株)西鉄ストア	ダイクス飯倉店 業態変更	流通業	581	-	自己資金 及び 借入金	平成24年6月	平成24年8月
(株)西鉄ストア	にしてつストア 三潁店建替増床工事	流通業	506	-		平成24年8月	平成24年12月
西鉄バス北九州(株)	バス車両新造 (乗合30両)	運輸業	490	-		平成24年4月	平成25年3月

#### (2) 重要な設備の除却等

特記すべき事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,000,000,000
計	1,000,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	396,800,930	同左	東京証券取引所 (市場第一部) 福岡証券取引所	単元株式数は1,000株です。
計	396,800,930	同左		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は次のとおりです。

##### 第1回新株予約権(平成22年7月22日取締役決議)

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	296 (注) 1	296 (注) 1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	296,000 (注) 1、2	296,000 (注) 1、2
新株予約権の行使時の払込金額	1株あたり 1円	同左
新株予約権の行使期間	平成22年8月7日から 平成52年8月6日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行 価格及び資本組入額	発行価格 282円 資本組入額 141円	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の 取得については、当社取 締役会の決議による承認 を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4	同左

(注) 1 各新株予約権の目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は1,000株とする。

- 2 平成22年7月22日(以下、「決議日」という。)後、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)または株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整するものとする。
- 調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割・併合の比率
- また、上記のほか、決議日後、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は、合理的な範囲で付与株式数を調整することができる。
- なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。
- 3 新株予約権原簿に記載された各新株予約権を保有する者(以下、「新株予約権者」という。)は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役(委員会設置会社における執行役を含む。)、監査役および執行役員のいずれの地位をも喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から10年間に限り、新株予約権を行使することができる。
- 上記に関わらず、新株予約権者は、以下の( )または( )に定める場合(ただし、( )については、後記(注)4に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除く。)には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。
- ( )新株予約権者が平成51年8月6日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合  
平成51年8月7日から平成52年8月6日
- ( )当社が消滅会社となる合併で契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議または代表執行役の決定がなされた場合)  
当該承認日の翌日から15日間
- 4 当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割もしくは新設分割(それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。)、または株式交換もしくは株式移転(それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。)(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生日(吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、および株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。)の直前において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。
- 交付する再編対象会社の新株予約権の数
- 新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
- 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
- 再編対象会社の普通株式とする。
- 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
- 組織再編行為の条件等を勘案の上、前記(注)2に記載の内容に準じて決定する。
- 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
- 交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。
- 再編後払込金額 = 交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円
- 新株予約権を行使することができる期間
- 新株予約権の行使期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、新株予約権の行使期間の満了日までとする。
- 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項
- 別途決定する。
- 譲渡による新株予約権の取得の制限
- 譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
- 新株予約権の取得条項
- 別途決定する。
- その他の新株予約権の行使の条件
- 前記(注)3に準じて決定する。

## 第2回新株予約権(平成23年7月21日取締役会決議)

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	344 (注)1	344 (注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	344,000 (注)1、2	344,000 (注)1、2
新株予約権の行使時の払込金額	1株あたり1円	同左
新株予約権の行使期間	平成23年8月6日から 平成53年8月5日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 264円 資本組入額 132円	同左
新株予約権の行使の条件	(注)3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4	同左

(注) 1 各新株予約権の目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は1,000株とする。

- 2 平成23年7月21日(以下、「決議日」という。)後、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)または株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整するものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{株式分割・併合の比率}$$

また、上記のほか、決議日後、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は、合理的な範囲で付与株式数を調整することができる。

なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。

- 3 新株予約権原簿に記載された各新株予約権を保有する者(以下、「新株予約権者」という。)は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役(委員会設置会社における執行役を含む。)、監査役および執行役員のいずれの地位をも喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から10年間に限り、新株予約権を行使することができる。

上記に関わらず、新株予約権者は、以下の( )または( )に定める場合(ただし、( )については、後記(注)4に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除く。)には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。

( )新株予約権者が平成52年8月5日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合  
平成52年8月6日から平成53年8月5日

( )当社が消滅会社となる合併で契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議または代表執行役の決定がなされた場合)

当該承認日の翌日から15日間

- 4 当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割もしくは新設分割(それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。)、または株式交換もしくは株式移転(それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。)(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生日(吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、および株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。)の直前において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、前記(注)2に記載の内容に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数に乗じて得られる金額とする。

再編後払込金額 = 交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円

新株予約権を行使することができる期間

新株予約権の行使期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、新株予約権の行使期間の満了日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項  
別途決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

新株予約権の取得条項

別途決定する。

その他の新株予約権の行使の条件

前記(注)3に準じて決定する。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成9年4月1日～ 平成10年3月31日	11,563	396,800	1	26,157	1	12,914

(注) 1 株式分割及び転換社債の株式転換による増加です。

2 平成9年5月20日付をもって、1株につき1.03株の割合で株式分割しました。これにより増加した株式数は11,557,114株です。

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		56	21	161	109	3	14,146	14,496	
所有株式数(単元)		164,722	1,565	33,582	16,125	25	177,998	394,017	2,783,930
所有株式数の割合(%)		41.81	0.40	8.52	4.09	0.01	45.17	100.00	

- (注) 1 自己株式1,854,710株は「個人その他」に1,854単元及び「単元未満株式の状況」に710株含まれています。  
2 「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が30株含まれています。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海一丁目8番11号	23,387	5.89
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	19,718	4.97
株式会社福岡銀行	福岡市中央区天神二丁目13番1号	19,408	4.89
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号	15,782	3.98
株式会社西日本シティ銀行	福岡市博多区博多駅前三丁目1番1号	15,047	3.79
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	13,032	3.28
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	10,269	2.59
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	4,528	1.14
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町二丁目11番3号	4,169	1.05
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川二丁目27番2号	3,887	0.98
計		129,231	32.57

- (注) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係わる株式数は次のとおりです。  
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 23,387千株  
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 4,169千株

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,854,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 392,163,000	392,163	
単元未満株式	普通株式 2,783,930		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	396,800,930		
総株主の議決権		392,163	

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 西日本鉄道株式会社	福岡市中央区天神一丁目 11番17号	1,854,000		1,854,000	0.47
計		1,854,000		1,854,000	0.47

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、株式報酬型ストックオプション制度を採用しています。当該制度は、会社法に基づき、新株予約権を発行する方法によるものです。

その内容は次のとおりです。

第1回新株予約権

決議年月日	平成22年7月22日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役(社外取締役を除く)10名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しています。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載しています。

第2回新株予約権

決議年月日	平成23年7月21日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役(社外取締役を除く)11名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しています。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載しています。



## 2 【自己株式の取得等の状況】

### 【株式の種類等】

#### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

#### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号の規定に基づく単元未満株式の買取請求による普通株式の取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	39,848	14,451,566
当期間における取得自己株式	4,071	1,527,582

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

#### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(単元未満株式の買増請求)	3,713	1,305,996	578	216,172
保有自己株式数	1,854,710		1,858,203	

(注) 1 当期間における「その他(単元未満株式の買増請求)」には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買増請求による株式数は含めておりません。

2 当期間における「保有自己株式数」には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増しによる株式数は含めておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、株主の皆様への安定した利益還元を重視し、適切な内部留保の確保による財務体質及び経営基盤の強化を図りながら、安定的・継続的な配当を実施することとしています。

当事業年度の配当につきましては、このような考え方のもと、当事業年度の業績等に鑑み、1株につき6円（うち中間配当3円）としました。

内部留保資金につきましては、安全対策や当社グループの成長のための設備投資及び借入金の返済等に充当してまいります。

また、剰余金の配当は中間配当と期末配当の年2回とし、中間配当については取締役会、期末配当については株主総会を配当の決定機関としています。

なお、当社は、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨、定款に定めています。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりです。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成23年11月2日 取締役会決議	1,184	3
平成24年6月28日 定時株主総会決議	1,184	3

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第168期	第169期	第170期	第171期	第172期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	512	394	384	378	400
最低(円)	333	310	331	330	334

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものです。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年 10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	3月
最高(円)	370	365	373	382	391	400
最低(円)	348	352	361	365	372	383

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものです。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役会長		長尾 垂夫	昭和18年 6月1日生	昭和41年4月 当社入社 平成3年7月 当社東京事務所長 平成5年6月 当社取締役 平成9年6月 当社常務取締役 平成13年6月 当社専務取締役 平成14年6月 当社代表取締役専務取締役 平成15年6月 当社代表取締役社長 平成20年6月 当社代表取締役会長 平成22年6月 当社取締役会長(現在)	(注) 3	106,615
取締役社長 代表取締役		竹島 和幸	昭和23年 11月23日生	昭和46年4月 当社入社 平成12年7月 当社都市開発事業本部流通レジャー事業 部長 平成15年6月 天神エフエム(株)代表取締役社長 平成15年6月 当社取締役 平成17年6月 当社常務取締役 平成18年6月 当社取締役常務執行役員 平成19年6月 当社取締役専務執行役員 平成20年6月 当社代表取締役社長(現在)	(注) 3	56,000
取締役副社長 代表取締役	業務全般 監査部、CSR推進 本部、総務部担当 CSR推進本部長	中尾 和毅	昭和27年 9月1日生	昭和51年4月 当社入社 平成15年6月 当社総務部長 平成17年6月 当社取締役 平成18年6月 当社取締役執行役員 平成19年6月 当社取締役常務執行役員 平成22年6月 当社取締役専務執行役員 平成23年6月 当社代表取締役専務執行役員 平成24年6月 当社代表取締役副社長(現在)	(注) 3	36,000
取締役 専務執行役員	住宅事業本部 担当 住宅事業本部長	鈴木 信一郎	昭和25年 12月30日生	昭和49年4月 当社入社 平成11年7月 当社住宅事業本部戸建住宅事業部長 平成15年6月 当社取締役 平成18年6月 当社取締役執行役員 平成20年6月 当社取締役常務執行役員 平成24年6月 当社取締役専務執行役員(現在)	(注) 3	39,000
取締役 常務執行役員	鉄道事業本部 担当 鉄道事業本部長	柳 信治	昭和25年 2月1日生	昭和49年4月 当社入社 平成16年7月 当社鉄道事業本部営業部長 平成18年6月 当社執行役員鉄道事業本部副本部長 兼営業部長 平成19年6月 当社取締役執行役員 平成22年6月 当社取締役常務執行役員(現在)	(注) 3	31,000
取締役 常務執行役員	広報室、経営企 画本部、西鉄プ ランド委員会担 当 経営企画本部長	倉富 純男	昭和28年 8月13日生	昭和53年4月 当社入社 平成15年6月 当社都市開発事業本部流通レジャー事業 部長 平成18年7月 当社都市開発事業本部商業レジャー事業 部長 平成19年6月 当社執行役員都市開発事業本部副本部長 兼商業レジャー事業部長 平成19年6月 天神エフエム(株)代表取締役社長 平成20年6月 当社取締役執行役員 平成23年6月 当社取締役常務執行役員(現在)	(注) 3	24,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 常務執行役員	都市開発事業 本部、天神委員 会担当 都市開発事業 本部長	高崎 繁行	昭和30年 1月7日生	昭和55年4月 当社入社 平成17年7月 当社企画部長 平成18年7月 当社経営企画本部経営企画部長 平成20年6月 当社取締役執行役員 平成23年6月 当社取締役常務執行役員(現在)	(注) 3	20,000
取締役 常務執行役員	経理部、ストア 計画室担当	部谷 由二	昭和32年 1月10日生	昭和54年4月 当社入社 平成15年7月 当社経理部付部長 平成16年7月 当社都市開発事業本部ビル事業部長 平成18年7月 当社流通ストア計画室長 平成19年6月 当社経理部長 平成20年6月 当社取締役執行役員 平成22年2月 ㈱西鉄アカウンティングサービス代表 取締役社長 平成24年6月 当社取締役常務執行役員(現在)	(注) 3	26,000
取締役 常務執行役員	国際物流事業本 部担当 国際物流事業本 部長	高木 栄二	昭和23年 10月21日生	昭和46年4月 当社入社 平成10年7月 当社航空貨物事業本部関西営業部長 平成15年7月 当社航空貨物事業本部西日本営業部長 平成18年4月 当社航空貨物事業本部東日本輸出営業 部長 平成18年6月 当社執行役員航空貨物事業本部副本部長 兼東日本輸出営業部長 平成20年4月 当社執行役員航空貨物事業本部副本部長 平成22年6月 当社常務執行役員国際物流事業本部長 平成24年6月 当社取締役常務執行役員(現在)	(注) 3	12,000
取締役 執行役員	自動車事業本部 担当 自動車事業本部 部長	佐々木 希	昭和28年 1月27日生	昭和52年4月 当社入社 平成13年6月 当社自動車局整備事業部長 平成15年6月 西鉄モーターズ(㈱)(現西鉄エム・テック ㈱)代表取締役社長 平成20年6月 当社執行役員自動車事業本部技術部長 平成20年7月 当社執行役員自動車事業本部技術部長兼 自動車技術主幹 平成22年6月 当社執行役員自動車事業本部副本部長兼 技術部長兼自動車技術主幹 平成23年6月 当社取締役執行役員(現在)	(注) 3	14,000
取締役 執行役員	事業創造部、観 光交流推進室、 ICカード事業 部、西鉄グルー プ観光委員会担 当	上中 哲次	昭和29年 8月26日生	平成53年4月 当社入社 平成15年6月 当社自動車局乗合バス事業本部副本部長 平成16年7月 当社自動車事業本部計画部長 平成18年6月 当社執行役員自動車事業本部副本部長兼 計画部長 平成22年6月 当社執行役員ICカード事業部長 平成23年6月 当社執行役員 平成24年6月 当社取締役執行役員(現在)	(注) 3	16,000
取締役		末吉 紀雄	昭和20年 2月18日生	平成3年3月 北九州コカ・コーラボトリング(㈱)(現コ カ・コーラウエスト(㈱))取締役 平成7年3月 同社常務取締役 平成9年8月 同社専務取締役 平成11年3月 同社取締役副社長 平成14年3月 同社代表取締役社長兼CEO 平成18年7月 同社代表取締役CEO 平成19年6月 当社取締役(現在) 平成21年1月 コカ・コーラウエスト(㈱)代表取締役社長 兼CEO 平成22年1月 同社代表取締役会長(現在)	(注) 3	2,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役		木瀬 照雄	昭和22年 4月29日生	平成8年6月 東陶機器(株)(現TOTO(株))取締役 平成12年6月 同社取締役上席常務執行役員 平成14年6月 同社取締役専務執行役員 平成15年6月 同社代表取締役社長 平成21年4月 同社代表取締役会長兼取締役会議長 (現在) 平成21年6月 当社取締役(現在)	(注) 3	
常任監査役 常勤		宮野 祐輔	昭和28年 11月1日生	昭和52年4月 当社入社 平成13年7月 (株)西鉄アカウンティングサービス代表 取締役社長 平成15年6月 当社企画部長 平成17年6月 当社取締役 平成18年6月 当社取締役執行役員 平成19年6月 当社取締役常務執行役員 平成22年6月 当社常任監査役(常勤)(現在)	(注) 4	44,030
常任監査役 常勤		小野 昭生	昭和23年 1月30日生	昭和46年7月 運輸省(現国土交通省)入省 昭和59年7月 同省四国運輸局企画部長 平成元年4月 国際観光振興会ロンドン観光宣伝 事務所長 平成6年6月 同省運輸政策局国際企画課長 平成11年7月 同省船員中央労働委員会事務局長 平成13年7月 社団法人全国旅行業協会専務理事 平成16年6月 当社監査役(常勤) 平成21年6月 当社常任監査役(常勤)(現在)	(注) 4	30,000
監査役		谷 正明	昭和18年 1月23日生	平成5年6月 (株)福岡銀行取締役 平成7年6月 同行常務取締役 平成11年6月 同行代表取締役専務取締役 平成12年4月 同行代表取締役副頭取 平成17年4月 同行代表取締役頭取(現在) 平成19年4月 (株)ふくおかフィナンシャルグループ代表 取締役会長兼社長(現在) 平成20年6月 当社監査役(現在)	(注) 4	
監査役		津上 賢治	昭和26年 2月14日生	昭和48年4月 (株)日本興業銀行(現(株)みずほコーポレート 銀行)入行 平成9年10月 同行ニューヨーク営業部長 平成11年6月 同行営業第八部長 平成12年11月 九州電力(株)入社 平成14年7月 同社海外事業部長 平成19年6月 同社執行役員福岡支店長 平成21年6月 同社取締役常務執行役員事業開発本部長 兼情報通信本部長 平成22年6月 同社取締役常務執行役員事業開発本部長 平成22年7月 同社取締役常務執行役員国際事業本部長 平成24年6月 同社代表取締役副社長(現在) 平成24年6月 当社監査役(現在)	(注) 4	
計						456,645

- (注) 1 取締役末吉紀雄氏及び取締役木瀬照雄氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
- 2 常任監査役小野昭生氏、監査役谷正明氏及び監査役津上賢治氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役です。
- 3 取締役の任期は、平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までです。
- 4 監査役の任期は、平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までです。
- 5 当社は執行役員制度を導入しています。取締役が兼務しない執行役員は次の5名です。
- 執行役員 宮田克彦 人事部担当 人事部長 西鉄ウィルアクト(株)代表取締役社長
  - 執行役員 新 俊明 国際物流事業本部副本部長兼業務部長
  - 執行役員 北村慎司 国際物流事業本部副本部長兼東日本輸出営業部長
  - 執行役員 清水信彦 自動車事業本部副本部長兼計画部長
  - 執行役員 庄崎秀昭 鉄道事業本部副本部長兼計画部長

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

当社は、企業価値の持続的な向上を目指し、お客様や地域社会・株主の期待に応える経営を行っていくために、公共交通を中核とする当社グループの事業特性を踏まえながら、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

#### ア．企業統治の体制の概要

当社は監査役設置会社を採用しています。取締役会は社外取締役2名を含む13名の取締役で構成され、社外取締役は独立した立場から業務執行の監督を行っています。また、執行役員制度を導入しており、経営の意思決定・監督と執行の役割の明確化を図っています。監査役会は社外監査役3名を含む4名の監査役で構成され、内部監査部門との連携をとりながら、監査の実効性向上を図っています。

#### イ．会社の機関の内容

##### (取締役、取締役会)

取締役会は、原則として毎月1回開催し、法定事項その他重要な業務執行を決定するとともに、業務執行状況の報告を受けるなど業務執行の監督を行っています。

##### (常務会、執行役員等)

当社は、代表取締役社長の意思決定を補佐する機関として、常務会及び経営会議並びにCSR推進会議を設置しています。常務会は、代表取締役、各部門の担当執行役員等で構成され、原則として毎週1回開催し、社長決裁事項や取締役会に提案する事項を審議するとともに、各部門の業務執行状況の把握、監督を行っています。経営会議は、代表取締役、関係部門の担当執行役員等で構成され、原則として毎週1回開催し、経営戦略や重要な執行案件等の方針や方向性を協議しています。CSR推進会議は、代表取締役、各部門の担当執行役員等で構成され、必要に応じ開催し、内部統制、コンプライアンス、環境マネジメント、安全マネジメント等CSRに係る重要事項の方針、方向性を協議しています。なお、当社は、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、役割の明確化と各機能の強化を図るため、執行役員制度を導入しています。

##### (監査役、監査役会)

当社は監査役制度を採用しています。各監査役は、監査役会が定めた方針に従い、取締役会その他の重要な会議への出席、子会社を含む業務・財産状況の調査等を通じ、取締役の職務遂行の監査を行っています。

#### ウ．当該企業統治の体制を採用する理由

公共交通を中核とし、生活に密着した幅広い事業を営む当社グループにおいては、それぞれの業務に精通した取締役の合議による経営の意思決定が、企業価値向上のために有効であると考え、主に社内取締役で構成される取締役会を中心としたガバナンス体制を採用しています。

その上で、当社と利害関係のない社外取締役の選任と執行役員制度の導入により監督機能を強化し、業務執行機能の適正性を確保するとともに、社外監査役を含む監査役会と内部監査部門との連携により監査の実効性を高めています。

## エ．内部統制システムの整備の状況

取締役会設置会社である当社は、会社法第362条第4項第6号の定めに従い、内部統制に関する基本方針を当社取締役会において決議しています。

基本方針の実効性を確保するため、基本方針に規定する各事項の所管部署を定め、その執行状況を年度ごとに評価し、社長が取締役に報告することとしています。また、執行状況の評価を通じて、基本方針に改善すべき事項がないか検討するようにしています。

基本方針で定めた内部統制システムを構築・運用するために必要な各体制の整備状況は以下のとおりです。

### (コンプライアンス体制について)

取締役は、当社の定める「コンプライアンス方針」を自ら率先して遵守するほか、使用人に対して具体的行動指針となる「コンプライアンスマニュアル」を定め配布しています。また、その浸透を図るため、経営管理部が教育・アンケート等を実施するほか、特に重要な事項については、代表取締役が統括する部門横断組織により、審議、チェックを行うこととしています。さらに、社内・社外に内部通報窓口を設置し、違反行為の早期発見・是正に努めています。

反社会的勢力に対しては毅然とした態度で臨むこととしており、その旨を「コンプライアンス方針」において明記しています。また、反社会的勢力に対する具体的な行動指針を「コンプライアンスマニュアル」の中で規定し、当社及びグループ会社のすべての役員・従業員に周知しています。反社会的勢力への対応については、コンプライアンス体制の中で総務部が中心となり取り組むようにしています。

### (リスク管理体制について)

各部門に属するリスクのうち重要なものにつきまして、経営計画で対応策を策定し、その実施状況について毎年評価を行うようにしています。また、全社的なリスクのうち、安全に関する事項、法令・倫理遵守に関する事項等、特に重要なものにつきまして、代表取締役が統括する部門横断組織での審議をふまえて対応することとしています。さらに、自然災害や事故等の危機につきましては、「危機管理規程」及び「緊急事態対応規程」に基づき、適切かつ迅速に対応するようにしています。

### (情報管理体制について)

取締役及び使用人の職務に係る文書その他の記録につきまして、「文書取扱規則」に基づき関連資料とともに保存・管理するようにしています。

### (グループ管理体制について)

グループ全体のコンプライアンスが推進されるよう必要に応じて、マニュアルの共有化や子会社を対象とする研修等を実施しています。また、子会社が当社の内部通報窓口を利用できる環境を整えています。

当社グループにおける経営資源の有効活用による全体価値向上を図るため、当社及び子会社が合意した「グループ経営規程」に基づく経営管理を行っています。また、事業分野ごとに区分した子会社を当社の関係部門が支援し、連携を図る主管部制、必要に応じた監査部による調査等により、グループ会社の業務状況の把握に努めています。さらに、会計、給与計算、福利厚生等の各社に共通する業務を効率化し、適正を確保するため、専門の子会社を設立し、集中処理を行うようにしています。



(財務報告に係る内部統制について)

財務報告の信頼性向上のため、担当部署を定め、関連業務における重要なリスクの洗い出しとコントロールの有効性の確認を指導・推進しています。

オ．責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役末吉紀雄氏及び木瀬照雄氏並びに社外監査役谷正明氏及び津上賢治氏との間で、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しています。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令の定める最低責任限度額となります。

内部監査及び監査役監査、会計監査の状況

ア．内部監査

内部監査につきましては、内部統制システムの妥当性・有効性の確保や業務諸活動の適法性・合理性の確立のため、監査部に10名のスタッフを配置し、監査計画に基づきグループ会社を含めた監査を実施し、その結果を代表取締役に報告するとともに、指摘事項について対象部門長に対し改善報告を求めています。

イ．監査役監査

監査役監査につきましては、常勤監査役2名を中心に、監査役会で定められた監査役監査基準や監査方針に従い、取締役会その他重要な会議への出席、グループ会社を含めた往査、業務執行状況報告の受領を適宜行うなど、取締役の職務遂行を監査しています。また、監査役室6名の専任スタッフが監査役の補助にあたっています。

ウ．会計監査

会計監査につきましては、会社法に基づく会計監査及び金融商品取引法に基づく会計監査を新日本有限責任監査法人に委嘱しています。

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名
業務執行社員	森 行一	新日本有限責任監査法人
	東 能利生	
	佐藤 宏文	

- (注) 1 継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しています。  
2 同監査法人は自主的に、業務執行社員について当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっています。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 7名 会計士補 1名 その他 9名

## エ．内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びに内部統制部門との関係

### (内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携)

監査役は、会計監査人から定例的に監査実施状況の報告を受けています。内部監査部門と監査役は、監査計画立案にあたって綿密な協議を行い、監査結果を相互に報告するなど緊密な連携をとることにより、効率的な監査を行うよう努めています。また、内部監査部門は会計監査人に対し、必要に応じて内部監査の状況を報告しています。

### (内部監査、監査役監査及び会計監査と内部統制部門との関係)

内部統制に関する基本方針に規定する各事項の執行状況を社長が評価し、取締役会に報告するにあたって、内部統制部門が内部統制の執行状況を評価し、その評価を内部監査部門が監査しています。また、内部監査部門は、内部統制部門と連携し、監査の実効性向上を図っています。内部統制部門は、監査役及び会計監査人に対し、必要に応じて内部統制の執行状況を報告しています。

## 社外取締役及び社外監査役

当社は、社外取締役として末吉紀雄氏及び木瀬照雄氏の2名を、社外監査役として小野昭生氏、谷正明氏及び津上賢治氏の3名を選任しています。

## ア．社外取締役及び社外監査役との関係

当社と社外取締役及び社外監査役との人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係は次のとおりです。

- ・社外取締役である末吉紀雄氏が代表取締役会長であるコカ・コーラウエスト株式会社との間で自動販売機設置料受入等の取引を、会頭である福岡商工会議所に対する会費の支払いおよび同会議所の関係団体に対する寄付を、それぞれ行っています。
- ・社外取締役である木瀬照雄氏が代表取締役会長兼取締役会議長であるTOTO株式会社との間で貨物取扱料受入の取引を行っています。
- ・社外監査役である谷正明氏が代表取締役頭取である株式会社福岡銀行との間で資金の借入等の取引を行っています。
- ・社外監査役である津上賢治氏が代表取締役副社長である九州電力株式会社との間で電力料支払等の取引を行っています。

## イ．社外取締役及び社外監査役が当社の企業統治において果たす機能及び役割

企業経営に関する豊富な経験や見識、当社と利害関係のない独立した立場から、取締役会における重要事項の決定及び業務執行の監督等に関して有益な意見をいただけるよう、社外取締役を選任しています。

企業経営者としての経験や見識、多様な職務経験に基づく視点、当社からの独立性等、それぞれの立場から、業務執行や意思決定の適正性の確保に関して適切かつ有益な監査を受けられるよう、社外監査役を選任しています。

## ウ．社外取締役及び社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針

社外取締役及び社外監査役を選任する目的は、業務執行を担う経営陣から独立した立場から有益な意見をいただくこと、適切かつ有益な監督・監査をいただくことにあると考えています。そのためには人格や見識、企業経営に関する経験や知識、当社および当社の事業に関する知識や理解と並んで当社からの独立性は重要な要素であると考えていますが、現在のところ、明確に独立性に関する基準又は方針として定めたものではありません。

エ．社外取締役及び社外監査役の選任状況に関する当社の考え方

当社の社外取締役及び社外監査役は、それぞれに求められる要素を兼ね備え、期待される機能及び役割を十分に果たしていただけるものと考えています。

オ．社外取締役による監督及び社外監査役による監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

(社外取締役による監督及び社外監査役による監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携)

内部監査部門、監査役及び会計監査人は、社外取締役に対し、必要に応じて、内部監査の状況、監査役監査の状況及び会計監査の状況をそれぞれ報告することとしています。

また、内部監査部門及び会計監査人は、社外監査役に対し、必要に応じて、内部監査の状況及び会計監査の状況をそれぞれ報告することとしています。

(社外取締役による監督及び社外監査役による監査と内部統制部門との関係)

内部統制部門は、社外取締役及び社外監査役に対し、必要に応じて、内部統制の執行状況を報告することとしています。

役員報酬等の内容

ア．提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

(当事業年度に係る報酬等)

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与	ストック オプション	
取締役 (社外取締役を除く。)	367	231	47	88	11
監査役 (社外監査役を除く。)	33	33			1
社外役員	50	50			5

(注) 上記取締役の報酬等の種類別の総額及び報酬等の種類別の総額には、使用人兼務取締役(7名)の使用人分給与93百万円(基本報酬75百万円、賞与17百万円)は含まれていません。

イ．提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

ウ．役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は、取締役会において、上記方針について次のとおり決議しています。

当社の役員報酬制度は、企業価値の安定的かつ持続的な確保・向上に資するような体系としています。

取締役(社外取締役を除く。)の報酬については、各取締役の役位等を勘案した固定報酬である基本報酬、当該事業年度の連結業績および各取締役の業績を勘案した賞与ならびに株主の皆様との利益意識を共有し、株価上昇および企業価値向上への貢献意欲を一層高めることを目的とした株式報酬型ストックオプションの3本立てとし、株主総会においてご承認いただいた報酬枠の範囲内で、取締役会において決定しています。

社外取締役および監査役の報酬については、業績に直接的には関与しない職務の性質をふまえ基本報酬のみとし、株主総会においてご承認いただいた報酬枠の範囲内で、社外取締役については取締役会において、監査役については監査役の協議により決定しています。

株式の保有状況

ア．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 123銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 17,511百万円

イ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ふくおかフィナンシャルグループ	3,326,664	1,151	資金調達、事業情報収集等の関係先として、また地域経済活動における連携等のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	8,129,400	1,121	資金調達、事業情報収集等の関係先として
(株)西日本シティ銀行	4,552,815	1,088	資金調達、事業情報収集等の関係先として、また地域経済活動における連携等のため
九州電力(株)	387,200	629	地域経済活動における連携等のため
日本空港ビルデング(株)	580,800	609	国際物流事業、旅行事業における事業運営の関係先として
(株)九電工	1,142,000	605	地域経済活動における連携等のため
(株)井筒屋	10,520,418	589	地域経済活動における連携等のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	202,535	523	資金調達、事業情報収集等の関係先として
野村ホールディングス(株)	1,202,525	523	社債等の金融取引、事業情報収集等の関係先として
(株)正興電機製作所	1,133,031	504	地域経済活動における連携等のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,293,540	496	資金調達、事業情報収集等の関係先として
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	1,529,528	442	資金調達、事業情報収集等の関係先として
(株)福岡中央銀行	1,245,551	427	資金調達、事業情報収集等の関係先として、また地域経済活動における連携等のため
(株)東陽テクニカ	523,800	402	国際物流事業における事業運営の関係先として
京阪電気鉄道(株)	1,131,000	394	同業としての事業連携、情報交換等のため
西部瓦斯(株)	1,820,000	376	地域経済活動における連携等のため
(株)佐賀銀行	1,442,566	337	資金調達、事業情報収集等の関係先として、また地域経済活動における連携等のため
久光製薬(株)	100,000	335	地域経済活動における連携等のため
TOTO(株)	491,000	328	国際物流事業における事業運営の関係先として、また地域経済活動における連携等のため

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
RKB毎日放送(株)	339,800	221	地域経済活動における連携等のため
京浜急行電鉄(株)	367,000	219	同業としての事業連携、情報交換等のため
全日本空輸(株)	734,455	182	国際物流事業、旅行事業における事業運営の 関係先として
三菱電機(株)	150,000	147	鉄道事業、不動産事業における事業運営の関 係先として
(株)三越伊勢丹ホールディング ス	172,245	129	地域経済活動における連携等のため
(株)筑邦銀行	453,788	128	資金調達、事業情報収集等の関係先として、ま た地域経済活動における連携等のため
(株)富士ピー・エス	773,663	116	鉄道事業における事業運営の関係先として

みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ふくおかフィナンシャルグ ループ	6,500,000	2,249	議決権行使の指図
(株)みずほフィナンシャルグ ループ	6,163,000	850	議決権行使の指図
(株)三井住友フィナンシャルグ ループ	170,000	439	議決権行使の指図
(株)三菱UFJフィナンシャル・ グループ	950,000	364	議決権行使の指図

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

(当事業年度)

## 特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ふくおかフィナンシャルグループ	3,326,664	1,220	資金調達、事業情報収集等の関係先として、また地域経済活動における連携等のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	8,129,400	1,097	資金調達、事業情報収集等の関係先として
(株)西日本シティ銀行	4,552,815	1,065	資金調達、事業情報収集等の関係先として、また地域経済活動における連携等のため
日本空港ビルデング(株)	580,800	632	国際物流事業、旅行事業における事業運営の関係先として
(株)井筒屋	10,520,418	599	地域経済活動における連携等のため
(株)正興電機製作所	1,133,031	577	地域経済活動における連携等のため
(株)九電工	1,142,000	555	地域経済活動における連携等のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	202,535	551	資金調達、事業情報収集等の関係先として
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,293,540	532	資金調達、事業情報収集等の関係先として
(株)東陽テクニカ	523,800	471	国際物流事業における事業運営の関係先として
九州電力(株)	387,200	456	地域経済活動における連携等のため
(株)福岡中央銀行	1,245,551	452	資金調達、事業情報収集等の関係先として、また地域経済活動における連携等のため
京阪電気鉄道(株)	1,131,000	445	同業としての事業連携、情報交換等のため
野村ホールディングス(株)	1,202,525	440	社債等の金融取引、事業情報収集等の関係先として
西部瓦斯(株)	1,820,000	405	地域経済活動における連携等のため
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	1,529,528	403	資金調達、事業情報収集等の関係先として
久光製薬(株)	100,000	392	地域経済活動における連携等のため
(株)佐賀銀行	1,442,566	340	資金調達、事業情報収集等の関係先として、また地域経済活動における連携等のため
TOTO(株)	491,000	305	国際物流事業における事業運営の関係先として、また地域経済活動における連携等のため
(株)筑邦銀行	1,305,788	283	資金調達、事業情報収集等の関係先として、また地域経済活動における連携等のため
RKB毎日放送(株)	339,800	270	地域経済活動における連携等のため
京浜急行電鉄(株)	367,000	265	同業としての事業連携、情報交換等のため

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
コカ・コーラウエスト(株)	138,500	200	地域経済活動における連携等のため
全日本空輸(株)	734,455	183	国際物流事業、旅行事業における事業運営の 関係先として
(株)三越伊勢丹ホールディングス	172,245	167	地域経済活動における連携等のため
(株)富士ピー・エス	773,663	131	鉄道事業における事業運営の関係先として

みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ふくおかフィナンシャルグループ	6,500,000	2,385	議決権行使の指図
(株)みずほフィナンシャルグループ	6,163,000	832	議決権行使の指図
(株)三井住友フィナンシャルグループ	170,000	462	議決権行使の指図
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	950,000	391	議決権行使の指図

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

ウ．保有目的が純投資目的である投資株式

該当する投資株式はありません。

#### 取締役の定数

当社の取締役は16名以内とする旨、定款に定めています。

#### 取締役の選任決議要件

当社は、取締役の選任の決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨、定款に定めています。

#### 取締役会にて決議できる株主総会決議事項

機動的な資本政策を遂行することが可能となるよう、当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨、定款に定めています。

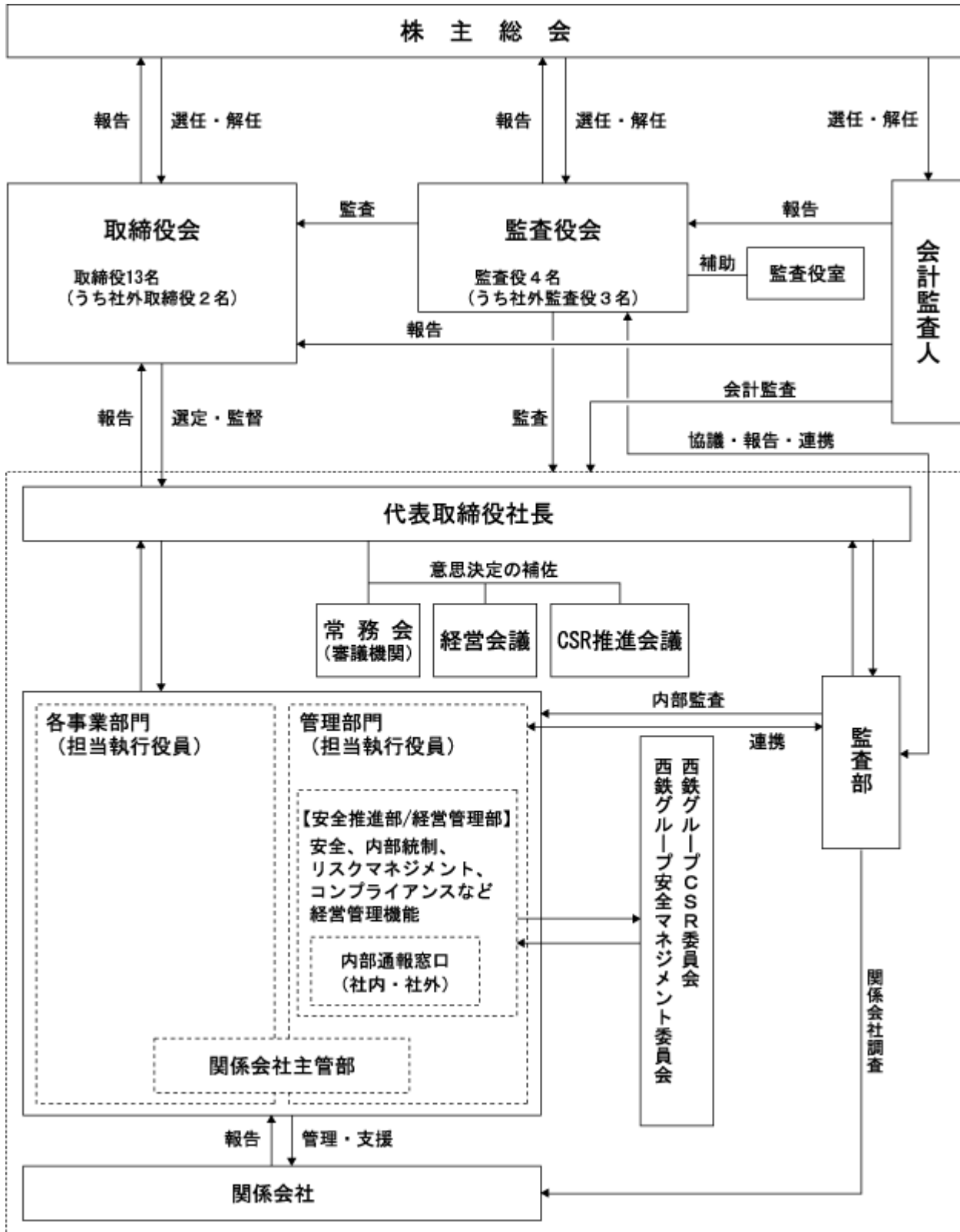
また、当社は、株主への利益還元を維持するため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって中間配当をすることができる旨、定款に定めています。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の特別決議の定足数をより確実に充足できるよう定足数を緩和することを目的として、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨、定款に定めています。



コーポレート・ガバナンス体制及び内部統制体制の模式図



(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	54	3	56	3
連結子会社		2		
計	54	5	56	3

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

当社の連結子会社であるNNR・グローバル・ロジスティクス(U.S.A.)は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているERNST&YOUNG LLPに対して、レビュー及び税務業務等に係る報酬として31百万円を支払っています。

当連結会計年度

当社の連結子会社であるNNR・グローバル・ロジスティクス(U.S.A.)は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているERNST&YOUNG LLPに対して、レビュー及び税務業務等に係る報酬として31百万円を支払っています。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

当社は、新日本有限責任監査法人に対して、第41回無担保社債発行に係るコンフォートレター作成業務、国際財務報告基準(IFRS)の導入に関する情報と助言の提供、及び環境会計の導入・開示に関する情報と助言の提供についての対価を支払っています。

当連結会計年度

当社は、新日本有限責任監査法人に対して、「株あんくるふじや」の株式取得にかかる財務調査等についての対価を支払っています。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づき作成しています。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)第2条の規定に基づき、「財務諸表等規則」及び「鉄道事業会計規則」(昭和62年運輸省令第7号)により作成しています。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表及び第172期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査を受けています。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行なっています。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握するために、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同法人が実施するセミナーに参加するなどして情報収集に努めています。また、社内において「グループ経理規程」を制定しており、この規程において、グループ会社の経理に関する基本的事項を審議し、方針を決定することを目的として「グループ経理委員会」を設置し、定期的に会議を開催しています。また同委員会の中で「グループ会計基準」を制定し、適宜見直しを行うことや新会計基準の対応方針を決定する等、グループ内での会計処理の統一を図り、財務諸表の信頼性を担保しています。

1【連結財務諸表等】  
(1)【連結財務諸表】  
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当連結会計年度 (平成24年3月31日)	
<b>資産の部</b>				
流動資産				
現金及び預金	2	26,589	2	33,502
受取手形及び売掛金	5	25,002	5, 6	27,596
有価証券		3		-
販売土地及び建物	2	14,935	2	18,570
商品及び製品		3,201		3,383
仕掛品		991		617
原材料及び貯蔵品		1,806		2,034
繰延税金資産		3,312		4,286
その他		3,816		4,055
貸倒引当金		161		115
流動資産合計		79,496		93,931
固定資産				
有形固定資産				
建物及び構築物（純額）		157,185		160,313
機械装置及び運搬具（純額）		16,955		16,072
土地		86,959		86,992
建設仮勘定		9,078		8,685
その他（純額）		5,126		4,962
有形固定資産合計	1, 2	275,306	1, 2	277,026
無形固定資産				
のれん	7	786	7	776
その他		8,289		6,797
無形固定資産合計		9,076		7,573
投資その他の資産				
投資有価証券	3	20,045	3	20,265
繰延税金資産		8,684		8,827
その他	2, 3	5,008	2, 3	5,383
貸倒引当金		667		569
投資その他の資産合計		33,071		33,906
固定資産合計		317,454		318,507
資産合計		396,950		412,438

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	31,143	<sup>6</sup> 39,038
短期借入金	<sup>2</sup> 38,406	<sup>2</sup> 37,902
未払消費税等	1,041	546
未払法人税等	1,743	4,410
前受金	3,944	5,540
賞与引当金	4,366	4,783
役員賞与引当金	72	77
独禁法関連引当金	-	2,034
その他の引当金	<sup>8</sup> 65	<sup>8</sup> 54
その他	17,658	18,874
流動負債合計	98,441	113,262
固定負債		
社債	57,000	57,000
長期借入金	<sup>2</sup> 80,659	<sup>2</sup> 78,236
繰延税金負債	955	687
退職給付引当金	14,446	16,554
役員退職慰労引当金	361	358
その他の引当金	<sup>8</sup> 135	<sup>8</sup> 141
長期預り保証金	35,929	34,046
その他	2,416	2,485
固定負債合計	191,904	189,508
負債合計	290,346	302,771
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,157	26,157
資本剰余金	12,920	12,920
利益剰余金	65,240	68,266
自己株式	650	663
株主資本合計	103,667	106,681
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,015	2,264
繰延ヘッジ損益	2	0
為替換算調整勘定	1,383	1,620
その他の包括利益累計額合計	634	643
新株予約権	62	151
少数株主持分	2,239	2,191
純資産合計	106,604	109,667
負債純資産合計	396,950	412,438

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業収益	323,891	327,509
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	287,182	287,274
販売費及び一般管理費	2 25,726	2 25,240
営業費合計	1, 3, 9 312,908	1, 3, 9 312,515
営業利益	10,982	14,994
営業外収益		
受取利息	37	40
受取配当金	576	621
持分法による投資利益	112	74
雑収入	1,098	972
営業外収益合計	1,824	1,708
営業外費用		
支払利息	2,870	2,735
雑支出	750	395
営業外費用合計	3,620	3,131
経常利益	9,187	13,572
特別利益		
固定資産売却益	4 2,193	4 398
受託工事金受入額	5 177	5 458
工事負担金等受入額	6 431	6 314
その他	176	0
特別利益合計	2,979	1,172
特別損失		
固定資産圧縮損	7 803	7 921
固定資産除却損	8 378	8 447
減損損失	10 486	10 343
独禁法関連引当金繰入額	-	2,034
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	280	-
その他	940	366
特別損失合計	2,889	4,113
税金等調整前当期純利益	9,277	10,631
法人税、住民税及び事業税	3,392	6,105
法人税等調整額	64	1,120
法人税等合計	3,328	4,984
少数株主損益調整前当期純利益	5,948	5,646
少数株主利益	166	250
当期純利益	5,782	5,396

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	5,948	5,646
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,475	248
繰延ヘッジ損益	2	2
為替換算調整勘定	540	294
持分法適用会社に対する持分相当額	26	4
その他の包括利益合計	2,040	53 <sub>1</sub>
包括利益	3,908	5,593
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,813	5,405
少数株主に係る包括利益	95	188

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	26,157	26,157
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	26,157	26,157
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	12,920	12,920
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	12,920	12,920
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	61,828	65,240
当期変動額		
剰余金の配当	2,371	2,369
当期純利益	5,782	5,396
当期変動額合計	3,411	3,026
当期末残高	65,240	68,266
<b>自己株式</b>		
当期首残高	566	650
当期変動額		
自己株式の取得	85	14
自己株式の処分	2	1
当期変動額合計	83	13
当期末残高	650	663
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	100,340	103,667
当期変動額		
剰余金の配当	2,371	2,369
当期純利益	5,782	5,396
自己株式の取得	85	14
自己株式の処分	2	1
当期変動額合計	3,327	3,013
当期末残高	103,667	106,681



	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	3,490	2,015
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,475	248
当期変動額合計	1,475	248
当期末残高	2,015	2,264
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
当期首残高	0	2
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	2
当期変動額合計	2	2
当期末残高	2	0
<b>為替換算調整勘定</b>		
当期首残高	886	1,383
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	496	237
当期変動額合計	496	237
当期末残高	1,383	1,620
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	2,604	634
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,969	9
当期変動額合計	1,969	9
当期末残高	634	643
<b>新株予約権</b>		
当期首残高	-	62
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	62	88
当期変動額合計	62	88
当期末残高	62	151
<b>少数株主持分</b>		
当期首残高	2,425	2,239
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	185	48
当期変動額合計	185	48
当期末残高	2,239	2,191
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	105,369	106,604
当期変動額		
剰余金の配当	2,371	2,369
当期純利益	5,782	5,396
自己株式の取得	85	14
自己株式の処分	2	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,092	49
当期変動額合計	1,234	3,062
当期末残高	106,604	109,667

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	9,277	10,631
減価償却費	21,763	20,570
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	280	-
のれん償却額	361	250
株式報酬費用	62	88
減損損失	486	343
固定資産除却損	1,053	708
固定資産圧縮損	803	921
工事負担金等受入額	609	773
固定資産売却損益（は益）	2,127	346
賞与引当金の増減額（は減少）	21	347
役員賞与引当金の増減額（は減少）	2	4
退職給付引当金の増減額（は減少）	408	2,010
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	287	110
独禁法関連引当金の増減額（は減少）	-	2,034
その他の引当金の増減額（は減少）	3 1,681	3 4
受取利息及び受取配当金	613	661
支払利息	2,870	2,735
投資有価証券売却損益（は益）	4	0
売上債権の増減額（は増加）	558	2,223
たな卸資産の増減額（は増加）	5,165	3,192
その他の資産の増減額（は増加）	450	181
仕入債務の増減額（は減少）	81	4,136
未払消費税等の増減額（は減少）	307	499
預り保証金の増減額（は減少）	3,500	1,962
その他の負債の増減額（は減少）	422	677
その他	26	101
小計	34,755	35,403
利息及び配当金の受取額	610	670
利息の支払額	2,857	2,733
法人税等の支払額	3,207	3,318
営業活動によるキャッシュ・フロー	29,300	30,021

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の償還による収入	7	3
固定資産の取得による支出	24,880	17,938
固定資産の売却による収入	2,472	679
投資有価証券の取得による支出	1,638	510
投資有価証券の売却及び償還による収入	12	105
新規連結子会社の取得による支出	-	2 626
工事負担金等受入による収入	958	2,017
その他	66	226
投資活動によるキャッシュ・フロー	23,134	16,043
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	206	212
長期借入れによる収入	10,300	11,700
長期借入金の返済による支出	14,249	15,771
社債の発行による収入	7,000	-
社債の償還による支出	7,000	-
配当金の支払額	2,372	2,373
その他	520	623
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,049	6,855
現金及び現金同等物に係る換算差額	312	163
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	1,195	6,959
現金及び現金同等物の期首残高	27,512	26,316
現金及び現金同等物の期末残高	1 26,316	1 33,276

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

## 【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

### 1 連結の範囲に関する事項

連結子会社は株式会社西鉄ストア、西鉄エム・テック株式会社等76社です。

当連結会計年度より新たに株式を取得した株式会社あんくるふじやを連結の範囲に含めています。

連結子会社である株式会社福岡スポーツセンターは、当連結会計年度において親会社と合併しました。なお、当該時点までの損益計算書については連結しています。

### 2 持分法の適用に関する事項

関連会社9社のうち九州急行バス株式会社等8社の投資について持分法を適用しています。

関連会社の大分ICカード開発株式会社については、当期純損益及び利益剰余金等のうち持分に見合う額が連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、この会社についての投資は持分法を適用せず原価法により評価しています。

### 3 連結子会社の事業年度等に関する事項

(1) 連結子会社のうち、決算日が連結決算日(3月31日)と異なる子会社は次のとおりです。

NNR・グローバル・ロジスティクス(U.K.)	(決算日12月31日)
NNR・ダクサー	(決算日12月31日)
NNR物流(上海)	(決算日12月31日)
NNR・グローバル・ロジスティクス(U.S.A.)	(決算日12月31日)
NNR・グローバル・ロジスティクス(India)	(決算日12月31日)
NNR・グローバル・ロジスティクス(KOREA)	(決算日12月31日)
NNR・グローバル・ロジスティクス(北京)	(決算日12月31日)
NNR・グローバル・ロジスティクス(オランダ)	(決算日12月31日)
NNR Prima(Indonesia)	(決算日12月31日)
NNR・グローバル・ロジスティクス(広州)	(決算日12月31日)
NNR・グローバル・ロジスティクス(タイランド)	(決算日12月31日)
NNR・グローバル・ロジスティクス(H.K.)	(決算日12月31日)
NNR・グローバル・ロジスティクス(S)	(決算日12月31日)
NNR・グローバル・ロジスティクス(フィリピン)	(決算日12月31日)
NNR・グローバル・ロジスティクス(TAIWAN)	(決算日12月31日)
ニシテツ・トラベル・ハワイ	(決算日12月31日)
NNR・ダクサー ハンガリー	(決算日12月31日)

(2) 連結財務諸表の作成にあたっては各社の決算日現在の財務諸表を使用しています。

上記の会社については、連結決算日との間に生じた重要な取引について調整を行ったうえ連結しています。

前連結会計年度において株式会社西鉄ストアは、決算日が2月末日から3月31日となりましたので、当該連結子会社については13ヶ月間の財務諸表を使用しています。また、当連結会計年度において西鉄物流株式会社及び西鉄シー・イー・コンサルタント株式会社は、決算日が12月31日から3月31日となりましたので、当該連結子会社については15ヶ月間の財務諸表を使用しています。株式会社インキューブ西鉄及び株式会社あんくるふじやは決算日が2月末日から3月31日となりましたので、株式会社インキューブ西鉄については13ヶ月間、株式会社あんくるふじやについては4ヶ月間の財務諸表を使用しています。

### 4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券は、満期保有目的債券については償却原価法(定額法)です。

その他有価証券のうち、時価のあるものについては決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)であり、時価のないものについては移動平均法による原価法です。

たな卸資産は、販売土地及び建物については個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)であり、その他のたな卸資産については主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)です。

## (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却の方法は、親会社及び連結子会社については定率法を採用しています。(一部の連結子会社については定額法を採用しています。)

ただし、平成10年4月1日以降取得の建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しています。

鉄道事業固定資産のうち、取替資産については、取替法を採用し、取得価額の50%に達するまで定率法による減価償却を行っています。

主な耐用年数は以下のとおりです。

建物及び構築物	10～50年
機械装置及び運搬具	5～15年

無形固定資産(リース資産を除く)の減価償却の方法は、定額法を採用しています。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しています。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を採用しています。

## (3) 繰延資産の処理方法

社債発行費は、支出時に全額費用として処理しています。

## (4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しています。

なお、在外子会社等の資産、負債、収益及び費用は、在外子会社等の決算期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めています。

## (5) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備え、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

賞与引当金は、従業員に対する賞与支給に備え、支給見込額に基づき計上しています。

役員賞与引当金は、役員及び執行役員等に対する賞与支給に備え、支給見込額に基づき計上しています。

独禁法関連引当金は、米国独禁法違反に係る課徴金及び訴訟関連費用支払の将来的なリスクに備えるため、当連結会計年度末において予想される支払見込額を計上しています。

厚生年金基金引当金は、一部の連結子会社が加入している厚生年金基金の積立不足額の状態に対応し、今後の損失発生に備え、当該連結子会社の負担見込相当額を計上しています。

ポイント引当金は、一部の連結子会社において、販売促進を目的として購入顧客に付与したポイントの将来の使用に伴う費用発生に備え、当連結会計年度末において、将来使用されると見込まれる額を計上しています。

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備え、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しています。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用を減額処理しています。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年～10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理しています。

役員退職慰労引当金は、一部の連結子会社において、役員及び執行役員等の退職慰労金の支出に備え、役員等の退職慰労金に関する内規に基づく基準額を計上しています。

旅行券等引換引当金は、一部の連結子会社が発行している旅行券等の未使用部分について、一定期間経過後収益に計上したものに対する将来の使用に備え、過去の引換率に基づき見積額を計上しています。

#### (6) 工事負担金等の会計処理

親会社及び一部の連結子会社は、国又は地方公共団体等より工事費の一部として工事負担金等を受けています。これらの工事負担金等は、工事完成時に当該工事負担金等相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しています。

なお、連結損益計算書においては、受託工事金受入額及び工事負担金等受入額として特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減額した額を固定資産圧縮損として特別損失に計上しています。

#### (7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっています。

なお、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っています。

ヘッジ手段、ヘッジ対象

ヘッジ手段：為替予約取引

ヘッジ対象：外貨建債権債務及び外貨予定取引

ヘッジ方針

通常の営業過程における輸出入取引に係る為替変動リスクを軽減するため、為替予約取引を行っており、投機目的のためのデリバティブ取引は行っていません。

ヘッジ有効性評価の方法

為替予約締結時にリスク管理方針に従って、外国通貨による決済見込額に対し、通貨種別、金額、履行時期等の重要な条件が同一である為替予約を行っているため、有効性の判定は省略しています。

(8) 重要な収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

主としてリース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっています。

(9) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の均等償却を行っています。

なお、平成22年4月1日以前に発生した負ののれんについては、従来の処理を継続して適用しており、5年間の均等償却を行っています。

(10) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資です。

(11) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。



## 【会計方針の変更】

### 1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用

当連結会計年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日）を適用しています。

潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定にあたり、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しています。

なお、これによる影響については「1株当たり情報」に記載しています。

## 【表示方法の変更】

### 連結損益計算書関係

前連結会計年度において区分掲記していた特別損失の「投資有価証券評価損」は、当連結会計年度において特別損失総額の100分の10以下となったため、当連結会計年度では特別損失の「その他」に含めて表示しています。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、特別損失の「投資有価証券評価損」に表示していた315百万円は、特別損失の「その他」に組み替えています。

### 連結キャッシュ・フロー計算書関係

前連結会計年度において区分掲記していた営業活動によるキャッシュ・フローの「厚生年金基金引当金の増減額」は、当連結会計年度では営業活動によるキャッシュ・フローの「その他の引当金の増減額」に含めて表示しています。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、営業活動によるキャッシュ・フローの「厚生年金基金引当金の増減額」に表示していた49百万円は、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他の引当金の増減額」に組み替えています。

## 【追加情報】

### 会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しています。

### 連結納税制度の適用

当社及び一部の連結子会社は、平成25年3月期より連結納税制度の適用を受けることにつき、承認申請を行いました。これに伴い、当連結会計年度より「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い（その1）」（実務対応報告第5号）及び「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い（その2）」（実務対応報告第7号）に基づき、連結納税制度の適用を前提とした会計処理を行っています。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 前連結会計年度(平成23年3月31日)

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額は350,226百万円です。
- (2) 租税特別措置法第64条(収用等)などの適用を受けて新たに取得した有形固定資産の取得価額について224百万円の圧縮記帳を行っています。
- (3) 有形固定資産の取得価額から控除した工事負担金等の圧縮記帳累計額は78,148百万円です。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額は363,735百万円です。
- (2) 租税特別措置法第64条(収用等)などの適用を受けて新たに取得した有形固定資産の取得価額について154百万円の圧縮記帳を行っています。
- (3) 有形固定資産の取得価額から控除した工事負担金等の圧縮記帳累計額は78,915百万円です。

2 担保に供している資産は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
有形固定資産	105,303百万円	104,424百万円
(うち財団抵当権設定資産)	89,508百万円	88,554百万円
その他の投資その他の資産	33百万円	42百万円
販売土地及び建物	67百万円	67百万円
現金及び預金	39百万円	37百万円
合計	105,443百万円	104,570百万円

担保付債務は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
長期借入金	26,122百万円	24,223百万円
1年以内返済長期借入金	5,349百万円	4,221百万円
合計	31,472百万円	28,445百万円

3 非連結子会社及び関連会社に係るものは次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券(株式)	1,223百万円	1,198百万円
その他の投資その他の資産 (出資金)	170百万円	206百万円

- 4 当企業集団は下記の会社等の借入金及び営業取引に係わる債務に対し、保証及び保証予約等を行っており、その金額は次のとおりです。

(保証債務)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
新栄町商店街振興組合	163百万円	157百万円
NNR・グローバル・ ロジスティクス(M)	0百万円	0百万円
合計	163百万円	158百万円

(保証予約等)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
西日本鉄道住宅会	860百万円	627百万円

- 5 手形割引高及び裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形割引高	60百万円	132百万円

- 6 期末日満期手形の処理

当連結会計年度末日は金融機関の休日であったため、期末日満期手形については満期日に決済が行われたものとして処理しており、その金額は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 百万円	83百万円
支払手形	- 百万円	263百万円

- 7 のれん及び負ののれんの表示

のれん及び負ののれんは、相殺して表示しています。相殺前の金額は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
のれん	807百万円	787百万円
負ののれん	21百万円	10百万円
差引	786百万円	776百万円

- 8 流動負債及び固定負債のその他の引当金の内訳は次のとおりです。

(流動負債)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
ポイント引当金	65百万円	20百万円
厚生年金基金引当金	- 百万円	33百万円
合計	65百万円	54百万円

(固定負債)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
旅行券等引換引当金	134百万円	140百万円
ポイント引当金	0百万円	0百万円
合計	135百万円	141百万円

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が営業費に含まれています。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	86百万円	98百万円

- 2 販売費及び一般管理費の内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
人件費	13,683百万円	13,652百万円
経費	9,821百万円	9,332百万円
諸税	640百万円	689百万円
減価償却費	1,187百万円	1,305百万円
のれん償却額	393百万円	260百万円
合計	25,726百万円	25,240百万円

- 3 営業費のうち、引当金繰入額の主なものは次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
賞与引当金	4,366百万円	4,783百万円
役員賞与引当金	72百万円	77百万円
ポイント引当金	65百万円	21百万円
退職給付引当金 (退職給付費用)	4,101百万円	3,978百万円
役員退職慰労引当金	101百万円	70百万円

- 4 前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

固定資産売却益は社有地売却益2,161百万円ほかです。

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

固定資産売却益は社有地売却益239百万円ほかです。

- 5 前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

受託工事金受入額は香椎副都心土地区画整理事業に伴う西鉄貝塚線貝塚 2号踏切道拡幅整備工事65百万円、交通安全施設等整備事業に伴う通谷 1号踏切道拡幅工事58百万円ほかです。

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

受託工事金受入額は小郡都市計画道路事業本郷基山線の道路新設工事に伴う天神大牟田線との立体交差化の鉄道電気設備移転工事131百万円、一般国道443号自歩道設置事業に伴う西鉄天神大牟田線矢加部 5号踏切道歩道拡幅工事85百万円ほかです。

6 前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)  
工事負担金等受入額は環境対応車普及促進対策費補助金277百万円ほかです。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)  
工事負担金等受入額は福岡市観光回遊バス導入補助金148百万円ほかです。

7 前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)  
固定資産圧縮損は法人税法第42条による圧縮額578百万円、租税特別措置法第64条による圧縮額224百万円、法人税法第45条による圧縮額1百万円、法人税法第47条による圧縮額0百万円です。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)  
固定資産圧縮損は法人税法第42条による圧縮額766百万円、租税特別措置法第64条による圧縮額154百万円、法人税法第47条による圧縮額0百万円です。

8 前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)  
固定資産除却損は建物123百万円ほかです。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)  
固定資産除却損は建物288百万円ほかです。

9 前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)  
一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)  
一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費はありません。

## 10 減損損失

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当社グループは、管理会計上の事業毎、施設・店舗毎、遊休資産については主として個別物件毎に資産のグループ化を行っています。

営業損失を継続して計上し、今後も収益性の回復が見込まれない以下の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（建物等486百万円）として特別損失に計上しています。

なお、店舗及び遊休地等の回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.1%で割り引いて算定しています。

(単位:百万円)

用途	種類	場所	減損損失
宿泊施設	建物等	大分県	449
店舗	建物等	福岡県	36

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社グループは、管理会計上の事業毎、施設・店舗毎、遊休資産については主として個別物件毎に資産のグループ化を行っています。

営業損失を継続して計上し、今後も収益性の回復が見込まれない以下の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（土地及び建物等343百万円）として特別損失に計上しています。

なお、店舗及び遊休地等の回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを4.8%で割り引いて算定しています。

(単位:百万円)

用途	種類	場所	減損損失
店舗	土地及び建物等	福岡県	330
店舗	建物等	大分県	12

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	51百万円
組替調整額	62百万円
税効果調整前	113百万円
税効果額	134百万円
その他有価証券評価差額金	248百万円

繰延ヘッジ損益

当期発生額	4百万円
税効果額	1百万円
繰延ヘッジ損益	2百万円

為替換算調整勘定

当期発生額	294百万円
為替調整勘定	294百万円

持分法適用会社に対する持分相当額

当期発生額	4百万円
-------	------

その他の包括利益合計	53百万円
------------	-------

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	396,800			396,800

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	1,577	247	6	1,818

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりです。

所在不明株主の株式買取による増加 181千株

単元未満株式の買取請求による増加 65千株

減少数の内訳は、次のとおりです。

単元未満株式の買増請求による減少 6千株

3 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

(単位:百万円)

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)			当連結会計年度末残高
			当連結会計年度期首	増加	減少	
提出会社(親会社)	ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	62
合計			-			62

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,185	3.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日
平成22年11月2日 取締役会	普通株式	1,185	3.00	平成22年9月30日	平成22年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,184	利益剰余金	3.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日



当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	396,800	-	-	396,800

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	1,818	39	3	1,854

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりです。

単元未満株式の買取請求による増加 39千株

減少数の内訳は、次のとおりです。

単元未満株式の買増請求による減少 3千株

3 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

(単位:百万円)

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社(親会社)	ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	151
合計				-			151

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,184	3.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日
平成23年11月2日 取締役会	普通株式	1,184	3.00	平成23年9月30日	平成23年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,184	利益剰余金	3.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日

[次へ](#)

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金及び預金勘定	26,589百万円	33,502百万円
有価証券勘定	3百万円	- 百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	272百万円	226百万円
償還期限が3ヶ月を超える債券等	3百万円	- 百万円
現金及び現金同等物	26,316百万円	33,276百万円

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たに株式会社あんくるふじやを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得による支出（純額）との関係は次のとおりです。

流動資産	1,016百万円
固定資産	2,085百万円
のれん	240百万円
流動負債	1,402百万円
固定負債	911百万円
株式会社あんくるふじや株式の取得価額	1,027百万円
株式会社あんくるふじやの現金及び現金同等物	401百万円
差引：株式会社あんくるふじやの取得による支出	626百万円

3 営業活動によるキャッシュ・フローの「その他の引当金の増減額（は減少）」の内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
厚生年金基金引当金の増減額	49百万円	33百万円
旅行券等引換引当金の増減額	8百万円	6百万円
ポイント引当金の増減額	170百万円	44百万円
店舗閉鎖損失引当金の増減額	119百万円	- 百万円
関係会社整理損失引当金の増減額	1,351百万円	- 百万円
合計	1,681百万円	4百万円

[次へ](#)

(リース取引関係)

(借主側)

1 ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引

該当する取引はありません。

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主として営業用車両(機械装置及び運搬具)及び流通業における店舗の什器備品(工具器具備品)等です。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアです。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりです。

2 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	193百万円	388百万円
1年超	1,793百万円	7,314百万円
合計	1,986百万円	7,703百万円

3 リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額  
前連結会計年度(平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	取得価額 相当額	減価償却 累計額相当額	減損損失 累計額相当額	期末残高 相当額
建物及び構築物	563	226	-	336
機械装置及び運搬具	366	236	-	129
その他(工具器具備品)	1,918	1,442	-	475
合計	2,847	1,905	-	942

(注) 取得価額相当額の算定は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法によっています。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	取得価額 相当額	減価償却 累計額相当額	減損損失 累計額相当額	期末残高 相当額
建物及び構築物	563	262	-	300
機械装置及び運搬具	398	302	-	95
その他(工具器具備品)	1,219	1,038	-	181
合計	2,181	1,604	-	577

(注) 取得価額相当額の算定は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法によっています。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	369百万円	196百万円
1年超	572百万円	381百万円
合計	942百万円	577百万円

リース資産減損勘定の残高

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
	- 百万円	- 百万円

(注) 未経過リース料期末残高相当額の算定は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いと見做すため、支払利子込み法によっています。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	437百万円	301百万円
リース資産減損勘定の取崩額	- 百万円	- 百万円
減価償却費相当額	437百万円	301百万円
減損損失	- 百万円	- 百万円

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

(貸主側)

1 リース投資資産の内訳

重要性が乏しいため、記載を省略しています。

2 リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の連結会計年度末日後の回収予定額

重要性が乏しいため、記載を省略しています。

3 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	63百万円	63百万円
1年超	720百万円	657百万円
合計	784百万円	720百万円

4 リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額、減価償却累計額、減損損失累計額及び期末残高

前連結会計年度(平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	取得価額	減価償却 累計額	減損損失 累計額	期末残高
機械装置及び運搬具	285	248	-	37
その他(工具器具備品)	10	5	-	4
合計	295	253	-	41

当連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	取得価額	減価償却 累計額	減損損失 累計額	期末残高
機械装置及び運搬具	78	68	-	9
その他(工具器具備品)	7	4	-	2
合計	85	73	-	12

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	50百万円	14百万円
1年超	17百万円	2百万円
合計	68百万円	17百万円

(注) 未経過リース料期末残高相当額の算定は、未経過リース料期末残高及び見積残存価額の残高の合計額が営業債権の期末残高等に占める割合が低いいため、受取利子込み法によっています。

(3) 受取リース料及び減価償却費

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
受取リース料	72百万円	22百万円
減価償却費	21百万円	4百万円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、各事業の設備投資計画等に基づき、必要な資金(主に銀行借入や社債発行)を調達しています。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しています。デリバティブは、為替変動リスクを軽減するために為替予約を利用しており、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。

有価証券及び投資有価証券は、主に取引先企業との業務提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されています。

営業債務である支払手形及び買掛金は、概ね1年以内の支払期日です。また、その一部については国際物流事業の輸出入取引に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されています。

短期借入金は主に営業取引に係る運転資金です。社債、長期借入金は主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものです。

預り保証金は、商業施設やオフィスビル等の賃貸借契約に基づく受入敷金・保証金であり、建設協力金の性格を有するものも含まれています。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引です。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等にかかるリスク)の管理

当社は、与信管理規定に従い、営業債権について、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っています。連結子会社についても、当社の与信管理規定に準じて、同様の管理を行っています。

投資有価証券については信用情報や発行体(取引先企業)の財務状況等を定期的に把握すること等によって管理しています。

デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っています。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、取締役会に報告しています。満期保有目的の債券以外のものについては、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しています。

デリバティブ取引については、リスク管理方針に従って為替予約を行っています。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、関係各部署からの報告に基づき、経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を確保することで、流動性リスクを管理しています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。

「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていません（（注）2参照）。

前連結会計年度(平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	26,589	26,589	-
(2)受取手形及び売掛金	25,002	25,002	-
(3)有価証券及び投資有価証券	13,540	13,540	-
資産計	65,131	65,131	-
(1)支払手形及び買掛金	31,143	31,143	-
(2)短期借入金	38,406	38,598	192
(3)社債	57,000	59,356	2,356
(4)長期借入金	80,659	82,347	1,687
(5)預り保証金	35,929	35,473	455
負債計	243,139	246,920	3,780
デリバティブ取引(*1)	4	4	-

(\*1)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しています。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	33,502	33,502	-
(2)受取手形及び売掛金	27,596	27,596	-
(3)有価証券及び投資有価証券	14,057	14,057	-
資産計	75,156	75,156	-
(1)支払手形及び買掛金	39,038	39,038	-
(2)短期借入金	37,902	38,092	190
(3)社債	57,000	59,812	2,812
(4)長期借入金	78,236	80,410	2,174
(5)預り保証金	34,046	33,828	217
負債計	246,222	251,181	4,958
デリバティブ取引(*1)	0	0	-

(\*1)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しています。

## (注)1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

## 資産

## (1)現金及び預金

これらはすべて短期であるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

## (2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

## (3)有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、主に市場価格によっています。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記に記載のとおりです。

負債

(1)支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によります。なお、一部の支払手形及び買掛金については、為替予約(振当処理)の対象とされており(下記「デリバティブ取引」参照)、円貨建債務とみて、他の支払手形及び買掛金と同様に取扱っています。

(2)短期借入金(1年以内返済長期借入金含む)及び(4)長期借入金

短期借入金のうち契約期間が1年以内の借入金については、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によります。短期借入金のうち1年以内返済長期借入金及び長期借入金については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割引いて算定する方法によります。

(3)社債

これらの時価については、市場価格によります。

(5)預り保証金

預り保証金のうち、建設協力金の性格を有するものについては、一定期間ごとに区分した将来キャッシュ・フローに信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定し、その他の預り保証金については当該帳簿価額によります。

デリバティブ取引

これらの時価については、期末時点における先物為替相場に基づいて算定しています。なお、為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象である支払手形及び買掛金と一体として処理されているため、その時価は当該支払手形及び買掛金に含めて表示しています(上記負債(1)参照)。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
非上場株式等	6,508	6,207

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)有価証券及び投資有価証券」には含めていません。

(注) 3 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	26,589	-	-	-
受取手形及び売掛金	25,002	-	-	-
有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券(金融債)	3	-	-	-
合計	51,594	-	-	-

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	33,502	-	-	-
受取手形及び売掛金	27,596	-	-	-
合計	61,098	-	-	-



(注) 4 社債及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
社債	-	24,000	33,000	-
長期借入金	15,716	48,129	26,145	6,385
合計	15,716	72,129	59,145	6,385

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
社債	-	32,000	25,000	-
長期借入金	14,899	47,152	24,767	6,315
合計	14,899	79,152	49,767	6,315

[前へ](#) [次へ](#)

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの)			
株式	10,161	5,822	4,338
小計	10,161	5,822	4,338
(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの)			
株式	3,375	4,313	938
小計	3,375	4,313	938
合計	13,537	10,136	3,400

(注) 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれていません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの)			
株式	10,465	6,143	4,321
小計	10,465	6,143	4,321
(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの)			
株式	3,592	4,399	807
小計	3,592	4,399	807
合計	14,057	10,543	3,514

(注) 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれていません。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	12	4	0
合計	12	4	0

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	5	0	0
合計	5	0	0

[前へ](#) [次へ](#)

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成23年3月31日)

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等		時価
				うち1年超	
原則的処理方法	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	143	-	2
	ユーロ		34	-	1
	シンガポールドル		10	-	0
	英ポンド		3	-	0
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	209	-	(注) 2
	円		135	-	
	ユーロ		128	-	
	英ポンド		26	-	
	シンガポールドル		18	-	
	カナダドル		6	-	
	香港ドル		2	-	

(注) 1 時価の算定方法は、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しています。

2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨建金銭債権債務と一体として処理されているため、その時価は、当該支払手形及び買掛金に含めて記載しています。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等		時価
				うち1年超	
原則的処理方法	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	11	-	0
	ユーロ		8	-	0
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	109	-	(注) 2
	ユーロ		82	-	
	円		49	-	
	英ポンド		29	-	
	シンガポールドル		14	-	
	ニュージーランドドル		13	-	
	香港ドル		10	-	
	カナダドル		3	-	
スウェーデンクローネ	0	-			

(注) 1 時価の算定方法は、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しています。

2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨建金銭債権債務と一体として処理されているため、その時価は、当該支払手形及び買掛金に含めて記載しています。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度及び確定給付企業年金制度（一部の連結子会社は適格退職年金制度）を設けています。従業員の退職に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。なお、一部の連結子会社では複数事業主制度による総合型厚生年金制度に加入しています。また、提出会社において退職給付信託を設定しています。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項

(1)制度全体の積立状況に関する事項

前連結会計年度（平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	日本鉄リサイクル 工業厚生年金基金	ジェフ外食産業 厚生年金基金
年金資産の額	18,998	111,859
年金財政計算上の給付債務の額	20,061	123,946
差引額	1,062	12,087

(注) 前連結会計年度末において入手し得る直近の財政決算に基づく数値を記載しています。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	ジェフ外食産業 厚生年金基金
年金資産の額	112,940
年金財政計算上の給付債務の額	127,954
差引額	15,014

(注) 当連結会計年度末において入手し得る直近の財政決算に基づく数値を記載しています。

(2)制度全体に占める当社グループの加入人員割合

前連結会計年度（平成23年3月31日）

日本鉄リサイクル 工業厚生年金基金	ジェフ外食産業 厚生年金基金
1.14%	0.24%

当連結会計年度（平成24年3月31日）

ジェフ外食産業 厚生年金基金
0.25%

(3)補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高、別途積立金残高等であり、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

なお、厚生年金基金について、積立不足の状況に対応するため、厚生年金基金引当金を計上しています。また、日本鉄リサイクル工業厚生年金基金については平成24年3月31日に脱退しました。

2 退職給付債務に関する事項

項目	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
イ 退職給付債務	40,876(注)1,2	39,725(注)1,2
ロ 年金資産	16,533(注)1	15,122(注)1
ハ 退職給付信託	4,767	4,156
ニ 未積立退職給付債務(イ+ロ+ハ)	19,574	20,445
ホ 未認識数理計算上の差異	5,300	3,947
ヘ 未認識過去勤務債務(債務の減額)	172	56
ト 退職給付引当金(ニ+ホ+ヘ)	14,446	16,554

前連結会計年度  
(平成23年3月31日)

当連結会計年度  
(平成24年3月31日)

(注)1 総合型厚生年金基金制度を含めていません。

(注)1 同左

2 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を使用しています。

2 同左

### 3 退職給付費用に関する事項

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
イ 勤務費用	2,185 (注)2,3	2,408 (注)2,3
ロ 利息費用	740	694
ハ 期待運用収益	464	435
ニ 数理計算上の差異の損益処理額	1,780	1,425
ホ 過去勤務債務の費用の減額処理額	140	115
ヘ 退職給付費用(イ + ロ + ハ + ニ + ホ)	4,101	3,978

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
(注) 1 上記退職給付費用以外に、割増退職金229百万円を計上し、そのうち167百万円を特別損失に計上しています。
2 簡便法を使用している連結子会社の退職給付費用は、「イ 勤務費用」に計上していません。
3 総合型厚生年金基金制度を含めていません。

当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
(注) 1 上記退職給付費用以外に、割増退職金63百万円を計上しています。
2 同左
3 同左

### 4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
イ 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
ロ 割引率	主に2.0%	同左
ハ 期待運用収益率	2.0%	同左
ニ 過去勤務債務の額の処理年数	5年～10年(発生年度の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用を減額処理しています。)	10年(発生年度の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用を減額処理しています。)
ホ 数理計算上の差異の処理年数	5年～10年(各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理しています。)	同左

(ストック・オプション等関係)

1 スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
営業費の株式報酬費用	62百万円	88百万円

2 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成22年 ストック・オプション	平成23年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 (社外取締役を除く)10名	当社取締役 (社外取締役を除く)11名
株式の種類別のストック・ オプションの数(注)	普通株式 296,000株	普通株式 344,000株
付与日	平成22年8月6日	平成23年8月5日
権利確定条件	権利確定条件は付されていません。	同左
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	同左
権利行使期間	平成22年8月7日から 平成52年8月6日まで	平成23年8月6日から 平成53年8月5日まで

(注) 株式数に換算して記載しています。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成24年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しています。

ストック・オプションの数

	平成22年 ストック・オプション	平成23年 ストック・オプション
権利確定前(株)		
前連結会計年度末	-	-
付与	-	344,000
失効	-	-
権利確定	-	344,000
未確定残	-	-
権利確定後(株)		
前連結会計年度末	296,000	-
権利確定	-	344,000
権利行使	-	-
失効	-	-
未行使残	296,000	344,000

単価情報

	平成22年 ストック・オプション	平成23年 ストック・オプション
権利行使価格	1円	1円
行使時平均株価	-	-
付与日における公正な評価単価	281円	263円





(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	(単位:百万円)	
	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
未実現利益	4,912	4,895
退職給付信託設定額	5,205	4,561
退職給付引当金	6,198	5,965
賞与引当金	1,720	2,050
繰越欠損金	2,967	3,177
販売用不動産評価損	883	749
独禁法関連引当金	-	623
未払事業税	163	338
その他	3,377	3,462
繰延税金資産小計	25,429	25,824
評価性引当額	7,437	6,416
繰延税金資産合計	17,992	19,408
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,450	1,249
退職給付信託設定益	3,829	3,355
その他	1,672	2,379
繰延税金負債合計	6,953	6,985
繰延税金資産の純額	11,038	12,422

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれています。

	(単位:百万円)	
	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	3,312	4,286
固定資産 - 繰延税金資産	8,684	8,827
流動負債 - その他	3	3
固定負債 - 繰延税金負債	955	687

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.4%	40.4%
(調整)		
法人税率変更の影響	-	9.2%
交際費等損金不算入	3.5%	3.5%
住民税均等割	1.6%	1.4%
独禁法関連引当金	-	1.4%
評価性引当額の増減	8.9%	9.0%
その他	0.7%	0.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	35.9%	46.9%

### 3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の40.4%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは37.8%、平成27年4月1日以降のものについては35.4%にそれぞれ変更されています。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が796百万円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が972百万円、その他有価証券評価差額金が176百万円、繰延ヘッジ損益が0百万円、それぞれ増加しています。

## (賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、福岡県その他の地域において、賃貸オフィスビルや商業ビル等を有しています。このうち、当社が有している賃貸オフィスビルや商業施設の一部については、当社及び一部の連結子会社で使用しているため、「賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産」としています。

賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は次のとおりです。

		(単位：百万円)	
		前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
賃貸等不動産	連結貸借対照表 計上額	期首残高	56,693
		期中増減額	2,794
		期末残高	59,488
	期末時価	85,463	84,525
賃貸等不動産として 使用される 部分を含む不動産	連結貸借対照表 計上額	期首残高	23,735
		期中増減額	225
		期末残高	23,509
	期末時価	72,149	66,682

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額です。
- 2 期中増減額のうち、前連結会計年度の賃貸等不動産における主な増加額は西鉄天神ビル取得(3,805百万円)、主な減少額は減価償却費(2,665百万円)であり、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産における増加額は設備投資(1,264百万円)、主な減少額は減価償却費(1,459百万円)です。また、当連結会計年度の賃貸等不動産における増加額は設備投資(1,295百万円)、主な減少額は減価償却費(2,623百万円)であり、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産における増加額は設備投資等(887百万円)、主な減少額は減価償却費(1,386百万円)です。
- 3 連結会計年度末の時価は、主として社外の不動産鑑定士による「不動産鑑定評価基準」に準じた鑑定評価による金額です。
- 4 連結貸借対照表計上額における前連結会計年度末残高のうち、賃貸等不動産については土地(18,062百万円)、建物(41,425百万円)であり、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産については土地(1,873百万円)、建物(21,636百万円)です。また、当連結会計年度末残高のうち、賃貸等不動産については土地(18,001百万円)、建物(40,024百万円)であり、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産については土地(1,873百万円)、建物(21,099百万円)です。

また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は次のとおりです。

		(単位：百万円)	
		前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
賃貸等不動産	賃貸収益	9,597	9,948
	賃貸費用	5,616	6,173
	差額	3,981	3,774
	その他(売却損益等)	1,048	-
賃貸等不動産として 使用される 部分を含む不動産	賃貸収益	4,804	4,858
	賃貸費用	3,594	3,868
	差額	1,210	990
	その他(売却損益等)	-	-

- (注) 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、サービスの提供及び経営管理として当社及び一部の連結子会社で使用している部分も含むため、当該部分の賃貸収益は計上していません。なお、当該不動産に係る費用(減価償却費、保険料、租税公課等)については、賃貸費用に含まれています。

[前へ](#)

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっています。

当社グループは、鉄道事業、バス事業等の運輸業を中核に幅広い事業活動を展開しており、当社及びグループ会社の事業の種類別の区分により、経営を管理しています。

したがって、当社グループは、事業の種類別のセグメントから構成されており、「運輸業」、「不動産業」、「流通業」、「物流業」及び「レジャー・サービス業」の5つを報告セグメントとしています。「運輸業」は、鉄道事業、バス事業等を行っています。「不動産業」は、不動産賃貸事業、不動産分譲事業等を行っています。「流通業」は、ストア事業を行っています。「物流業」は、国際物流事業等を行っています。「レジャー・サービス業」は、ホテル事業、旅行事業、広告事業等を行っています。

## 2 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一です。

報告セグメントの利益は、営業利益をベースとした数値です。セグメント間の内部営業収益又は振替高は、市場実勢価格に基づいています。

## 3 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	調整額	連結 財務諸表 計上額
	運輸業	不動産業	流通業	物流業	レジャー・ サービス業	計			
営業収益									
外部顧客への営業収益	82,889	45,009	76,502	67,231	30,005	301,639	22,252	-	323,891
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	1,755	5,550	253	366	4,722	12,647	25,231	37,879	-
計	84,645	50,559	76,756	67,598	34,727	314,287	47,483	37,879	323,891
セグメント利益又は 損失( )	3,087	7,338	801	985	155	12,057	555	519	10,982
セグメント資産	113,578	144,859	15,566	25,017	56,568	355,591	34,142	7,217	396,950
その他の項目									
減価償却費	11,427	5,848	839	841	2,108	21,065	1,484	786	21,763
のれん償却費	-	292	38	4	57	393	-	-	393
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	8,319	9,664	1,470	669	4,393	24,517	963	192	25,673

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ICカード事業、車両整備

関連事業、建設関連事業及び金属リサイクル事業を含んでいます。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	調整額	連結 財務諸表 計上額
	運輸業	不動産業	流通業	物流業	レジャー・ サービス業	計			
営業収益									
外部顧客への営業収益	82,659	46,478	73,886	70,564	31,066	304,655	22,853	-	327,509
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	1,659	5,550	378	354	4,397	12,341	24,951	37,292	-
計	84,318	52,029	74,265	70,919	35,463	316,996	47,805	37,292	327,509
セグメント利益	3,672	9,371	704	1,782	113	15,644	137	787	14,994
セグメント資産	116,922	149,546	20,772	24,334	57,416	368,992	33,360	10,086	412,438
その他の項目									
減価償却費	10,126	5,904	857	775	2,276	19,941	1,386	756	20,570
のれん償却費	-	109	51	4	95	260	-	-	260
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	8,881	4,919	1,592	496	2,858	18,748	686	841	18,593

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ICカード事業、車両整備

関連事業、建設関連事業及び金属リサイクル事業を含んでいます。

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

営業収益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	314,287	316,996
「その他」の区分の営業収益	47,483	47,805
セグメント間取引消去	37,879	37,292
連結財務諸表の営業収益	323,891	327,509

(単位：百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	12,057	15,644
「その他」の区分の利益	555	137
セグメント間取引消去	483	204
全社費用(注)	1,002	992
連結財務諸表の営業利益	10,982	14,994

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理費です。

(単位：百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	355,591	368,992
「その他」の区分の資産	34,142	33,360
セグメント間債権等の相殺消去	76,658	82,500
全社資産(注)	83,875	92,586
連結財務諸表の資産合計	396,950	412,438

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の現金・預金、有価証券等です。

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	21,065	19,941	1,484	1,386	786	756	21,763	20,570
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	24,517	18,748	963	686	192	841	25,673	18,593

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、親会社の本社資産の設備投資及びセグメント間消去です。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しています。

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が連結損益計算書の営業収益の90%を超えているため、記載を省略しています。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えているため、記載を省略しています。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、連結損益計算書の営業収益の10%以上を占める特定の顧客がないため、記載を省略しています。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しています。

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

(単位：百万円)

日本	アジア	北米	ヨーロッパ	合計
293,996	15,864	10,049	7,599	327,509

(注) 営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えているため、記載を省略しています。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、連結損益計算書の営業収益の10%以上を占める特定の顧客がないため、記載を省略しています。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	運輸業	不動産業	流通業	物流業	レジャー・サービス業	その他	全社・消去	合計
減損損失	-	440	22	-	22	-	-	486

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	運輸業	不動産業	流通業	物流業	レジャー・サービス業	その他	全社・消去	合計
減損損失	-	294	21	-	26	-	-	343

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	運輸業	不動産業	流通業	物流業	レジャー・サービス業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	-	292	38	4	57	-	-	393
当期末残高	-	180	35	14	576	-	-	807

なお、平成22年4月1日以前に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	運輸業	不動産業	流通業	物流業	レジャー・サービス業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	-	0	-	6	4	-	-	10
当期末残高	-	-	-	9	11	-	-	21

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	運輸業	不動産業	流通業	物流業	レジャー・サービス業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	-	109	51	4	95	-	-	260
当期末残高	-	552	224	9	-	-	-	787

なお、平成22年4月1日以前に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	運輸業	不動産業	流通業	物流業	レジャー・サービス業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	-	6	4	-	-	10
当期末残高	-	-	-	3	7	-	-	10

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

金額の重要性が乏しいため、記載を省略しています。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

[次へ](#)



(関連当事者情報)

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等  
該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等  
該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等  
該当事項はありません。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員が代表を務める会社	株式会社福岡銀行 (谷正明が代表を務める会社)	福岡市中央区天神二丁目13番1号	82,329	銀行業	(被所有) 直接 4.95	資金の借入	運転資金及び設備資金の借入 (注)	2,200	短期借入金 長期借入金	8,056 11,452

上記取引金額及び期末残高には、消費税等は含まれていません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 株式会社福岡銀行との取引は、いわゆる第三者のための取引で、取引条件及び取引条件の決定方針は、一般取引先と同様です。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等  
該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等  
該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等  
該当事項はありません。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	眞部 利應	-	-	当社監査役	-	商品の販売	分譲マンションの販売 (注) 1	63	-	-
役員	倉富 純男	-	-	当社取締役常務執行役員	(被所有) 直接 0.006	商品の販売	分譲マンションの販売 (注) 1	33	-	-
役員が代表を務める会社	株式会社福岡銀行 (谷正明が代表を務める会社)	福岡市中央区天神二丁目13番1号	82,329	銀行業	(被所有) 直接 4.95	資金の借入	運転資金及び設備資金の借入 (注) 2	2,400	短期借入金 長期借入金	8,194 11,607

上記取引金額及び期末残高には、消費税等は含まれていません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1 分譲マンションの販売については、一般取引条件と同様に決定しています。

2 株式会社福岡銀行との取引は、いわゆる第三者のための取引で、取引条件及び取引条件の決定方針は、一般取引先と同様です。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

該当事項はありません。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

該当事項はありません。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
	1株当たり純資産額	264.07円		271.75円
1株当たり当期純利益金額	14.63円		13.66円	
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	14.62円		13.64円	

(注) 1. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
	1株当たり当期純利益金額			
当期純利益(百万円)	5,782		5,396	
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-		-	
普通株式に係る当期純利益(百万円)	5,782		5,396	
普通株式の期中平均株式数(千株)	395,168		394,966	
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額				
当期純利益調整額(百万円)	-		-	
普通株式増加数(千株)	236		576	
(うち新株予約権(千株))	(236)		(576)	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	-		-	

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当連結会計年度 (平成24年3月31日)	
	純資産の部の合計額(百万円)	106,604		109,667
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	2,302		2,342	
(うち新株予約権(百万円))	(62)		(151)	
(うち少数株主持分(百万円))	(2,239)		(2,191)	
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	104,302		107,325	
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	394,982		394,946	

## (会計方針の変更)

当連結会計年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日)を適用しています。

潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定にあたり、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しています。

なお、これらの会計基準等を適用しなかった場合の前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、14円62銭です。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (年%)	担保	償還期限
当社	第35回無担保社債	平成18年 2月7日	10,000	10,000	1.77	なし	平成28年 2月5日
当社	第36回無担保社債	平成18年 4月27日	8,000	8,000	2.36	なし	平成28年 4月27日
当社	第37回無担保社債	平成19年 4月17日	7,000	7,000	1.70	なし	平成26年 4月17日
当社	第38回無担保社債	平成19年 4月17日	8,000	8,000	2.00	なし	平成29年 4月17日
当社	第39回無担保社債	平成20年 9月12日	10,000	10,000	1.85	なし	平成30年 9月12日
当社	第40回無担保社債	平成21年 9月16日	7,000	7,000	1.02	なし	平成26年 9月16日
当社	第41回無担保社債	平成22年 9月14日	7,000	7,000	1.32	なし	平成32年 9月14日
合計			57,000	57,000			

(注) 連結決算日後5年内における償還予定額は以下のとおりです。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
-	-	14,000	10,000	8,000

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	51,297	50,522	0.7	
1年以内に返済予定の長期借入金	18,080	18,238	1.7	
1年以内に返済予定のリース債務	307	394		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	90,219	91,257	1.6	平成25年4月1日～ 平成43年9月25日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	822	881		平成25年4月1日～ 平成32年9月30日
その他有利子負債	-	-	-	-
小計	160,727	161,294		
内部取引の消去	40,612	43,973		
合計	120,115	117,321		

(注) 1 平均利率については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しています。

2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載していません。

3 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりです。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	14,271	12,266	10,932	9,682
リース債務	345	224	162	66

【資産除去債務明細表】

当連結年会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しています。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
営業収益 (百万円)	77,166	158,252	236,204	327,509
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 (百万円)	1,779	4,011	8,012	10,631
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	561	1,636	3,377	5,396
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	1.42	4.14	8.55	13.66

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	1.42	2.72	4.41	5.11

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	20,777	25,559
受取手形	17	18
未収運賃	3 909	3 853
未収金	3 9,219	3 11,017
未収収益	595	545
未収消費税等	-	111
短期貸付金	3 7,451	3 7,655
販売土地及び建物	2, 4 14,686	2, 4 18,515
貯蔵品	758	834
前払費用	339	377
繰延税金資産	1,611	2,404
その他	997	1,034
貸倒引当金	4	3
流動資産合計	57,358	68,925
固定資産		
鉄道事業固定資産		
有形固定資産	176,326	179,238
減価償却累計額	110,879	114,177
有形固定資産（純額）	65,446	65,060
無形固定資産	1,554	1,393
鉄道事業固定資産合計	1, 2 67,000	1, 2 66,453
自動車事業固定資産		
有形固定資産	79,776	80,224
減価償却累計額	58,475	59,416
有形固定資産（純額）	21,300	20,807
無形固定資産	1,410	1,143
自動車事業固定資産合計	1, 2, 4 22,711	1, 2 21,950

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
<b>兼業固定資産</b>		
有形固定資産	244,267	253,523
減価償却累計額	109,986	115,705
有形固定資産（純額）	134,280	137,818
無形固定資産	2,251	2,041
兼業固定資産合計	1, 2 136,531	1, 2, 4 139,859
<b>各事業関連固定資産</b>		
有形固定資産	9,481	9,572
減価償却累計額	5,895	6,141
有形固定資産（純額）	3,586	3,431
無形固定資産	2,179	1,776
各事業関連固定資産合計	1 5,765	1 5,207
<b>建設仮勘定</b>		
鉄道事業	4,007	6,719
自動車事業	3	38
兼業	4,860	1,943
各事業関連	114	22
建設仮勘定合計	8,986	8,724
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	17,500	17,769
関係会社株式	16,763	16,730
出資金	106	108
関係会社出資金	268	268
長期貸付金	3 9,559	3 13,021
長期前払費用	32	10
繰延税金資産	2,698	2,456
その他	2,097	1,987
貸倒引当金	270	202
投資その他の資産合計	48,755	52,150
固定資産合計	289,751	294,347
資産合計	347,109	363,272



	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	3 45,570	3 45,453
1年内返済予定の長期借入金	2 12,175	2 12,638
リース債務	8	12
未払金	3 15,049	3 22,927
未払費用	1,689	1,947
未払消費税等	549	-
未払法人税等	440	2,953
預り連絡運賃	31	33
預り金	2,795	3,153
前受運賃	1,384	1,432
前受金	2,214	4,298
前受収益	521	511
賞与引当金	1,444	1,784
役員賞与引当金	38	42
独禁法関連引当金	-	2,034
1年内返還予定の預り保証金	3 3,304	3 3,250
従業員預り金	778	792
その他	258	531
流動負債合計	88,255	103,800
固定負債		
社債	57,000	57,000
長期借入金	2 76,910	2 75,946
リース債務	25	31
長期未払金	1,042	948
退職給付引当金	5,731	7,592
関係会社事業損失引当金	-	854
資産除去債務	278	282
長期預り保証金	3 33,727	3 31,679
固定負債合計	174,715	174,334
負債合計	262,970	278,134

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	26,157	26,157
資本剰余金		
資本準備金	12,914	12,914
その他資本剰余金	6	6
資本剰余金合計	12,920	12,920
利益剰余金		
利益準備金	5,054	5,054
その他利益剰余金		
特別償却準備金	-	264
固定資産圧縮積立金	1,362	1,564
別途積立金	27,150	27,150
繰越利益剰余金	10,294	10,527
利益剰余金合計	43,862	44,561
自己株式	650	663
株主資本合計	82,289	82,975
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,787	2,011
繰延ヘッジ損益	0	-
評価・換算差額等合計	1,787	2,011
新株予約権	62	151
純資産合計	84,139	85,138
負債純資産合計	347,109	363,272

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	第171期 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	第172期 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
鉄道事業営業利益		
営業収益		
旅客運輸収入	20,074	19,891
鉄道線路使用料収入	48	52
運輸雑収	1,389	1,371
鉄道事業営業収益合計	21,512	21,316
営業費		
運送営業費	11,325	11,600
一般管理費	1,137	1,141
諸税	1,151	1,170
減価償却費	5,171	4,955
鉄道事業営業費合計	18,786	18,868
鉄道事業営業利益	2,726	2,447
自動車事業営業利益		
営業収益		
旅客運輸収入	34,228	34,046
運輸雑収	2,987	2,883
自動車事業営業収益合計	37,216	36,929
営業費		
運送営業費	30,184	30,194
一般管理費	2,828	2,769
諸税	827	787
減価償却費	4,791	3,986
自動車事業営業費合計	38,631	37,737
自動車事業営業利益	1,414	808
兼業営業利益		
営業収益		
土地建物分譲収入	16,782	18,020
賃貸収入	17,990	18,249
航空貨物収入	32,681	33,358
その他の収入	6,371	7,372
兼業営業収益合計	73,826	77,000
営業費		
売上原価	52,035	52,265
販売費及び一般管理費	6,799	7,058
諸税	2,817	3,001
減価償却費	6,993	7,114
兼業営業費合計	68,646	69,439
兼業営業利益	5,180	7,560
全事業営業利益	6,491	9,199

	第171期 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	第172期 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>営業外収益</b>		
受取利息	175	208
有価証券利息	9	7
受取配当金	2 2,630	2 2,547
物品売却益	14	33
その他	460	409
<b>営業外収益合計</b>	<b>3,290</b>	<b>3,206</b>
<b>営業外費用</b>		
支払利息	1,781	1,722
社債利息	997	993
社債発行費	53	-
物品売却損	0	-
その他	477	222
<b>営業外費用合計</b>	<b>3,310</b>	<b>2,938</b>
<b>経常利益</b>	<b>6,471</b>	<b>9,468</b>
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	3 1,843	3 327
受託工事金受入額	4 96	4 411
工事負担金等受入額	5 259	5 265
その他	-	42
<b>特別利益合計</b>	<b>2,198</b>	<b>1,046</b>
<b>特別損失</b>		
固定資産圧縮損	6 557	6 828
固定資産除却損	7 334	7 234
減損損失	455	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	156	-
独禁法関連引当金繰入額	-	2,034
関係会社事業損失引当金繰入額	-	854
関係会社株式評価損	-	126
その他	669	256
<b>特別損失合計</b>	<b>2,173</b>	<b>4,335</b>
<b>税引前当期純利益</b>	<b>6,496</b>	<b>6,179</b>
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	<b>1,199</b>	<b>3,526</b>
<b>法人税等調整額</b>	<b>258</b>	<b>415</b>
<b>法人税等合計</b>	<b>940</b>	<b>3,110</b>
<b>当期純利益</b>	<b>5,556</b>	<b>3,068</b>

【営業費明細表】

区分	注記 番号	第171期 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		第172期 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
鉄道事業営業費	1				
運送営業費					
人件費		4,267		4,349	
経費		7,057		7,250	
計			11,325		11,600
一般管理費					
人件費		645		654	
経費		492		487	
計			1,137		1,141
諸税			1,151		1,170
減価償却費		5,171		4,955	
鉄道事業営業費合計			18,786		18,868
自動車事業営業費	2				
運送営業費					
人件費		14,362		14,194	
経費		15,821		15,999	
計			30,184		30,194
一般管理費					
人件費		1,603		1,587	
経費		1,225		1,182	
計			2,828		2,769
諸税			827		787
減価償却費		4,791		3,986	
自動車事業営業費合計			38,631		37,737
兼業営業費	3				
売上原価					
土地建物分譲原価		12,692		11,956	
航空貨物原価		24,920		24,766	
その他営業原価		14,422		15,541	
計			52,035		52,265
販売費及び一般管理費					
人件費		2,722		2,796	
経費		4,077		4,261	
計			6,799		7,058
諸税		2,817		3,001	
減価償却費		6,993		7,114	
兼業営業費合計			68,646		69,439
全事業営業費合計			126,063		126,046

(注)

第171期 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	第172期 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)																																																																																						
<p>事業別営業費合計の100分の5を超える主な費用は次のとおりです。</p> <p>(注) 1 鉄道事業営業費</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">運送営業費</td><td></td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">給与</td><td style="text-align: right;">3,816百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">退職給付費用</td><td style="text-align: right;">451百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">修繕費</td><td style="text-align: right;">2,721百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">動力費</td><td style="text-align: right;">1,009百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">手数料</td><td style="text-align: right;">2,104百万円</td></tr> </table> <p>2 自動車事業営業費</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">運送営業費</td><td></td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">給与</td><td style="text-align: right;">12,775百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">退職給付費用</td><td style="text-align: right;">1,587百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">修繕費</td><td style="text-align: right;">2,237百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">燃料費</td><td style="text-align: right;">3,259百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">管理委託料</td><td style="text-align: right;">4,982百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">公物使用料</td><td style="text-align: right;">1,699百万円</td></tr> </table> <p>3 兼業営業費</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">販売費及び一般管理費</td><td></td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">給与</td><td style="text-align: right;">2,373百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">退職給付費用</td><td style="text-align: right;">348百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">広告宣伝費</td><td style="text-align: right;">1,244百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">手数料</td><td style="text-align: right;">2,179百万円</td></tr> </table> <p>営業費(全事業)に含まれている引当金繰入額の主なものは次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">賞与引当金</td><td style="text-align: right;">1,444百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">役員賞与引当金</td><td style="text-align: right;">38百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">退職給付引当金 (退職給付費用)</td><td style="text-align: right;">3,364百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">14百万円</td></tr> </table> <p>営業費(全事業)の一般管理費に含まれている研究開発費はありません。</p>	運送営業費		給与	3,816百万円	退職給付費用	451百万円	修繕費	2,721百万円	動力費	1,009百万円	手数料	2,104百万円	運送営業費		給与	12,775百万円	退職給付費用	1,587百万円	修繕費	2,237百万円	燃料費	3,259百万円	管理委託料	4,982百万円	公物使用料	1,699百万円	販売費及び一般管理費		給与	2,373百万円	退職給付費用	348百万円	広告宣伝費	1,244百万円	手数料	2,179百万円	賞与引当金	1,444百万円	役員賞与引当金	38百万円	退職給付引当金 (退職給付費用)	3,364百万円	役員退職慰労引当金	14百万円	<p>事業別営業費合計の100分の5を超える主な費用は次のとおりです。</p> <p>(注) 1 鉄道事業営業費</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">運送営業費</td><td></td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">給与</td><td style="text-align: right;">3,939百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">退職給付費用</td><td style="text-align: right;">410百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">修繕費</td><td style="text-align: right;">2,691百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">動力費</td><td style="text-align: right;">1,055百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">手数料</td><td style="text-align: right;">2,140百万円</td></tr> </table> <p>2 自動車事業営業費</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">運送営業費</td><td></td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">給与</td><td style="text-align: right;">12,837百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">退職給付費用</td><td style="text-align: right;">1,357百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">修繕費</td><td style="text-align: right;">2,197百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">燃料費</td><td style="text-align: right;">3,532百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">管理委託料</td><td style="text-align: right;">4,883百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">公物使用料</td><td style="text-align: right;">1,710百万円</td></tr> </table> <p>3 兼業営業費</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">販売費及び一般管理費</td><td></td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">給与</td><td style="text-align: right;">2,473百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">退職給付費用</td><td style="text-align: right;">323百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">広告宣伝費</td><td style="text-align: right;">1,303百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 40px;">手数料</td><td style="text-align: right;">2,282百万円</td></tr> </table> <p>営業費(全事業)に含まれている引当金繰入額の主なものは次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding-left: 20px;">賞与引当金</td><td style="text-align: right;">1,784百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">役員賞与引当金</td><td style="text-align: right;">42百万円</td></tr> <tr><td style="padding-left: 20px;">退職給付引当金 (退職給付費用)</td><td style="text-align: right;">2,897百万円</td></tr> </table> <p>同 左</p>	運送営業費		給与	3,939百万円	退職給付費用	410百万円	修繕費	2,691百万円	動力費	1,055百万円	手数料	2,140百万円	運送営業費		給与	12,837百万円	退職給付費用	1,357百万円	修繕費	2,197百万円	燃料費	3,532百万円	管理委託料	4,883百万円	公物使用料	1,710百万円	販売費及び一般管理費		給与	2,473百万円	退職給付費用	323百万円	広告宣伝費	1,303百万円	手数料	2,282百万円	賞与引当金	1,784百万円	役員賞与引当金	42百万円	退職給付引当金 (退職給付費用)	2,897百万円
運送営業費																																																																																							
給与	3,816百万円																																																																																						
退職給付費用	451百万円																																																																																						
修繕費	2,721百万円																																																																																						
動力費	1,009百万円																																																																																						
手数料	2,104百万円																																																																																						
運送営業費																																																																																							
給与	12,775百万円																																																																																						
退職給付費用	1,587百万円																																																																																						
修繕費	2,237百万円																																																																																						
燃料費	3,259百万円																																																																																						
管理委託料	4,982百万円																																																																																						
公物使用料	1,699百万円																																																																																						
販売費及び一般管理費																																																																																							
給与	2,373百万円																																																																																						
退職給付費用	348百万円																																																																																						
広告宣伝費	1,244百万円																																																																																						
手数料	2,179百万円																																																																																						
賞与引当金	1,444百万円																																																																																						
役員賞与引当金	38百万円																																																																																						
退職給付引当金 (退職給付費用)	3,364百万円																																																																																						
役員退職慰労引当金	14百万円																																																																																						
運送営業費																																																																																							
給与	3,939百万円																																																																																						
退職給付費用	410百万円																																																																																						
修繕費	2,691百万円																																																																																						
動力費	1,055百万円																																																																																						
手数料	2,140百万円																																																																																						
運送営業費																																																																																							
給与	12,837百万円																																																																																						
退職給付費用	1,357百万円																																																																																						
修繕費	2,197百万円																																																																																						
燃料費	3,532百万円																																																																																						
管理委託料	4,883百万円																																																																																						
公物使用料	1,710百万円																																																																																						
販売費及び一般管理費																																																																																							
給与	2,473百万円																																																																																						
退職給付費用	323百万円																																																																																						
広告宣伝費	1,303百万円																																																																																						
手数料	2,282百万円																																																																																						
賞与引当金	1,784百万円																																																																																						
役員賞与引当金	42百万円																																																																																						
退職給付引当金 (退職給付費用)	2,897百万円																																																																																						

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	第171期 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	第172期 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	26,157	26,157
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	26,157	26,157
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	12,914	12,914
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	12,914	12,914
<b>その他資本剰余金</b>		
当期首残高	6	6
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	6	6
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	12,920	12,920
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	12,920	12,920
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
当期首残高	5,054	5,054
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	5,054	5,054
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>特別償却準備金</b>		
当期首残高	-	-
当期変動額		
特別償却準備金の積立	-	264
当期変動額合計	-	264
当期末残高	-	264
<b>固定資産圧縮積立金</b>		
当期首残高	638	1,362
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の積立	723	201

	第171期 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	第172期 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当期変動額合計	723	201
当期末残高	1,362	1,564
別途積立金		
当期首残高	27,150	27,150
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	27,150	27,150
繰越利益剰余金		
当期首残高	7,833	10,294
当期変動額		
剰余金の配当	2,371	2,369
特別償却準備金の積立	-	264
固定資産圧縮積立金の積立	723	201
当期純利益	5,556	3,068
当期変動額合計	2,461	232
当期末残高	10,294	10,527
利益剰余金合計		
当期首残高	40,677	43,862
当期変動額		
剰余金の配当	2,371	2,369
当期純利益	5,556	3,068
当期変動額合計	3,184	699
当期末残高	43,862	44,561
自己株式		
当期首残高	566	650
当期変動額		
自己株式の取得	85	14
自己株式の処分	2	1
当期変動額合計	83	13
当期末残高	650	663
株主資本合計		
当期首残高	79,188	82,289
当期変動額		
剰余金の配当	2,371	2,369
当期純利益	5,556	3,068
自己株式の取得	85	14
自己株式の処分	2	1
当期変動額合計	3,101	685
当期末残高	82,289	82,975
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		



	第171期 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	第172期 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当期首残高	3,061	1,787
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,274	224
当期変動額合計	1,274	224
当期末残高	1,787	2,011
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	-	0
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	0	-
評価・換算差額等合計		
当期首残高	3,061	1,787
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,274	224
当期変動額合計	1,274	224
当期末残高	1,787	2,011
新株予約権		
当期首残高	-	62
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	62	88
当期変動額合計	62	88
当期末残高	62	151
純資産合計		
当期首残高	82,250	84,139
当期変動額		
剰余金の配当	2,371	2,369
当期純利益	5,556	3,068
自己株式の取得	85	14
自己株式の処分	2	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,212	313
当期変動額合計	1,889	999
当期末残高	84,139	85,138

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

## 【重要な会計方針】

### 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的債券については償却原価法(定額法)です。

子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法です。

その他有価証券のうち、時価のあるものについては決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)であり、時価のないものについては移動平均法による原価法です。

### たな卸資産の評価基準及び評価方法

販売土地及び建物は個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)であり、貯蔵品は移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)です。

### 固定資産の減価償却の方法

#### 1 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しています。

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しています。

鉄道事業固定資産のうち、取替資産については、取替法を採用し、取得価額の50%に達するまで定率法による減価償却を行っています。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物及び構築物	10～50年
車両及び機械装置	5～15年

#### 2 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しています。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しています。

#### 3 リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を採用しています。

### 繰延資産の処理方法

社債発行費は、支出時に全額費用として処理しています。

### 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しています。

### 引当金の計上基準

#### 1 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備え、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

## 2 賞与引当金

従業員に対する賞与支給に備え、支給見込額に基づき計上しています。

## 3 役員賞与引当金

役員及び執行役員等に対する賞与支給に備え、支給見込額に基づき計上しています。

## 4 独禁法関連引当金

米国独禁法違反に係る課徴金及び訴訟費用支払の将来的なリスクに備えるため、当事業年度末において予想される支払見込額を計上しています。

## 5 退職給付引当金

従業員の退職給付に備え、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しています。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用を減額処理しています。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しています。

## 6 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業の損失に備えるため、当社が負担することとなる損失見込額を計上しています。

### 工事負担金等の会計処理

当社は、国又は地方公共団体等より工事費の一部として工事負担金等を受けています。これらの工事負担金等は、工事完成時に当該工事負担金等相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しています。なお、損益計算書においては、受託工事金受入額及び工事負担金等受入額として特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減額した額を固定資産圧縮損として特別損失に計上しています。

### ヘッジ会計の方法

#### 1 ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっています。なお、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っています。

#### 2 ヘッジ手段、ヘッジ対象

ヘッジ手段：為替予約取引

ヘッジ対象：外貨建債権債務及び外貨予定取引

#### 3 ヘッジ方針

通常の営業過程における輸出入取引に係る為替変動リスクを軽減するため、為替予約取引を行っており、投機目的のためのデリバティブ取引は行っていません。

#### 4 ヘッジ有効性評価の方法

為替予約締結時にリスク管理方針に従って、外国通貨による決済見込額に対し、通貨種別、金額、履行時期等の重要な条件が同一である為替予約を行っているため、有効性の判定は省略しています。

### その他財務諸表作成のための重要な事項

#### 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。

## 【会計方針の変更】

### 1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用

当事業年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号平成22年6月30日）を適用しています。

潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定にあたり、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しています。

なお、これによる影響については「1株当たり情報」に記載しています。

## 【表示方法の変更】

### 損益計算書関係

前事業年度において区分掲記していた特別損失の「投資有価証券評価損」は、当事業年度において特別損失総額の100分の10以下となったため、当事業年度では特別損失の「その他」に含めて表示しています。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前事業年度の損益計算書において、特別損失の「投資有価証券評価損」に表示していた311百万円は、特別損失の「その他」に組み替えています。

## 【追加情報】

### 会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しています。

### 連結納税制度の適用

当社は、平成25年3月期より連結納税制度の適用を受けることにつき、承認申請を行いました。これに伴い、当事業年度より「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い（その1）」（実務対応報告第5号）及び「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い（その2）」（実務対応報告第7号）に基づき、連結納税制度の適用を前提とした会計処理を行っています。

## 【注記事項】

(貸借対照表関係)

## 1 固定資産の圧縮記帳

第171期(平成23年3月31日)

- (1) 租税特別措置法第64条(収用等)などの適用を受けて新たに取得した有形固定資産の取得価額について224百万円の圧縮記帳を行っています。
- (2) 固定資産の取得価額から控除した工事負担金等の圧縮記帳累計額は73,605百万円です。

第172期(平成24年3月31日)

- (1) 租税特別措置法第64条(収用等)などの適用を受けて新たに取得した有形固定資産の取得価額について154百万円の圧縮記帳を行っています。
- (2) 固定資産の取得価額から控除した工事負担金等の圧縮記帳累計額は74,280百万円です。

## 2 担保資産

## (1) 財団

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
鉄道事業固定資産(鉄道財団)	64,979百万円	64,583百万円
自動車事業固定資産 (道路交通事業財団)	21,068百万円	20,577百万円
兼業固定資産(観光施設財団)	1,172百万円	1,098百万円

担保付債務は以下のとおりです。

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
長期借入金 (1年以内返済予定額を含む)	26,103百万円	25,368百万円

- (2) 上記のほか、特別土地保有税の徴収猶予のため、以下の資産を担保に供しています。

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
兼業固定資産	133百万円	133百万円
販売土地及び建物	67百万円	67百万円

## 3 関係会社に係わるもの

区分掲記されたもの以外で、関係会社に係わるものは次のとおりです。

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
未収運賃	642百万円	577百万円
未収金	3,765百万円	3,506百万円
短期貸付金	7,451百万円	7,655百万円
長期貸付金	9,559百万円	13,021百万円
短期借入金	23,520百万円	23,203百万円
未払金	8,543百万円	10,633百万円
1年内返還予定の預り保証金	144百万円	120百万円
長期預り保証金	1,853百万円	1,715百万円

#### 4 固定資産等の所有目的の変更

第171期(平成23年3月31日)

有形固定資産に計上していた土地等のうち、自動車事業固定資産34百万円を流動資産の販売土地及び建物に振替えています。

第172期(平成24年3月31日)

(1)有形固定資産に計上していた土地のうち、兼業固定資産27百万円を流動資産の販売土地及び建物に振替えています。

(2)流動資産の販売土地及び建物に計上していた土地等のうち、51百万円を兼業固定資産に振替えています。

当社は下記の会社等の借入金及び営業取引に係わる債務に対し、次のとおり保証及び保証予約等を行っています。

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
(保証債務)		
西鉄旅行株式会社	354百万円	589百万円
新栄町商店街振興組合	163百万円	157百万円
株式会社西鉄プラザ	0百万円	1百万円
NNR・グローバル・ロジスティクス(M)	0百万円	0百万円
小計	519百万円	749百万円
(保証予約等)		
西日本鉄道住宅会	860百万円	627百万円
福岡小松フォークリフト株式会社	150百万円	150百万円
筑豊電気鉄道株式会社	7百万円	2百万円
小計	1,018百万円	780百万円
合計	1,537百万円	1,530百万円

(損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価等に含まれています。

	第171期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	第172期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	84百万円	85百万円

- 2 関係会社に係わるものは次のとおりです。

	第171期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	第172期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
受取配当金	2,090百万円	1,963百万円

- 3 第171期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

固定資産売却益は社有地売却益1,813百万円ほかです。

- 第172期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

固定資産売却益は社有地売却益168百万円ほかです。

- 4 第171期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

受託工事金受入額は香椎副都心土地区画整理事業に伴う西鉄貝塚線貝塚2号踏切道拡幅工事65百万円ほかです。

- 第172期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

受託工事金受入額は小郡都市計画道路事業本郷基山線の道路新設工事に伴う天神大牟田線との立体交差化の鉄道電気設備移転工事131百万円、一般国道443号自歩道設置事業に伴う西鉄天神大牟田線矢加部5号踏切道歩道拡幅工事85百万円ほかです。

- 5 第171期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

工事負担金等受入額は環境対応車普及促進対策費補助金210百万円ほかです。

- 第172期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

工事負担金等受入額は福岡市観光回遊バス導入補助金148百万円ほかです。

- 6 第171期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

固定資産圧縮損は法人税法第42条による圧縮額331百万円、租税特別措置法第64条による圧縮額224百万円、法人税法第45条による圧縮額1百万円です。

- 第172期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

固定資産圧縮損は法人税法第42条による圧縮額674百万円、租税特別措置法第64条による圧縮額154百万円です。

- 7 第171期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

固定資産除却損は構築物134百万円ほかです。

- 第172期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

固定資産除却損は建物101百万円ほかです。



(株主資本等変動計算書関係)

第171期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	1,577	247	6	1,818

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりです。

所在不明株主の株式買取による増加 181千株

単元未満株式の買取請求による増加 65千株

減少数の内訳は、次のとおりです。

単元未満株式の買増請求による減少 6千株

第172期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	1,818	39	3	1,854

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりです。

単元未満株式の買取請求による増加 39千株

減少数の内訳は、次のとおりです。

単元未満株式の買増請求による減少 3千株

(リース取引関係)

(借主側)

1 ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引

該当する取引はありません。

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

営業用車両(工具・器具・備品)ほかです。

(イ)無形固定資産

該当する資産はありません。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりです。

2 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
1年内	114百万円	291百万円
1年超	1,548百万円	7,136百万円
合計	1,662百万円	7,428百万円

3 リース物件の取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

第171期(平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	取得価額 相当額	減価償却 累計額相当額	減損損失 累計額相当額	期末残高 相当額
自動車事業固定資産	4	4	-	-
兼業固定資産	35	27	-	7
各事業関連固定資産	42	42	-	0
合計	82	74	-	7

(注) 取得価額相当額の算定は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法によっています。

第172期(平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	取得価額 相当額	減価償却 累計額相当額	減損損失 累計額相当額	期末残高 相当額
兼業固定資産	30	29	-	1
合計	30	29	-	1

(注) 取得価額相当額の算定は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法によっています。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

未経過リース料期末残高相当額

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
1年内	4百万円	1百万円
1年超	2百万円	- 百万円
合計	7百万円	1百万円

リース資産減損勘定の残高

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
	- 百万円	- 百万円

(注) 未経過リース料期末残高相当額の算定は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、支払利子込み法によっています。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

	第171期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	第172期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
支払リース料	15百万円	3百万円
リース資産減損勘定の取崩額	- 百万円	- 百万円
減価償却費相当額	15百万円	3百万円
減損損失	- 百万円	- 百万円

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

(貸主側)

1 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
1年内	101百万円	101百万円
1年超	1,040百万円	939百万円
合計	1,142百万円	1,040百万円

2 リース物件の取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額、減価償却累計額、減損損失累計額及び期末残高

第171期(平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	取得価額	減価償却 累計額	減損損失 累計額	期末残高
自動車事業固定資産	165	155	-	10
合計	165	155	-	10

第172期(平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	取得価額	減価償却 累計額	減損損失 累計額	期末残高
自動車事業固定資産	165	165	-	0
合計	165	165	-	0

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
1年内	39百万円	4百万円
1年超	4百万円	-百万円
合計	43百万円	4百万円

(注) 未経過リース料期末残高相当額の算定は、未経過リース料期末残高及び見積残存価額の残高の合計額が営業債権の期末残高等に占める割合が低いいため、受取利子込み法によっています。

(3) 受取リース料及び減価償却費

	第171期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	第172期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
受取リース料	39百万円	39百万円
減価償却費	10百万円	10百万円

## (有価証券関係)

第171期(平成23年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 16,608百万円)及び関連会社株式(貸借対照表計上額 155百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

第172期(平成24年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 16,575百万円)及び関連会社株式(貸借対照表計上額 155百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	(単位:百万円)	
	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付信託設定額	5,205	4,561
退職給付引当金	2,703	2,855
賞与引当金	583	674
販売用不動産評価損	779	655
独禁法関連引当金	-	623
関係会社事業損失引当金	-	302
未払事業税	75	230
役員退職慰労金	227	199
その他	1,318	1,250
繰延税金資産小計	10,893	11,353
評価性引当額	581	825
繰延税金資産合計	10,311	10,528
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,211	1,102
退職給付信託設定益	3,829	3,355
固定資産圧縮積立金	923	857
その他	37	352
繰延税金負債合計	6,002	5,667
繰延税金資産の純額	4,309	4,860

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	第171期 (平成23年3月31日)	第172期 (平成24年3月31日)
法定実効税率 (調整)	40.4%	40.4%
法人税率変更の影響	-	10.1%
評価性引当額の増減	2.6%	5.5%
独禁法関連引当金	-	2.5%
交際費等損金不算入	1.9%	2.2%
住民税均等割	1.1%	1.2%
受取配当金益金不算入	13.7%	14.1%
子会社繰越欠損金の利用	18.2%	-
その他	0.3%	2.5%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	14.4%	50.3%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.4%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは37.8%、平成27年4月1日以降のものについては35.4%にそれぞれ変更されています。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が466百万円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が622百万円、その他有価証券評価差額金が155百万円それぞれ増加しています。

( 1 株当たり情報 )

項目	第171期 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)		第172期 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	
	1 株当たり純資産額	212.86円		215.19円
1 株当たり当期純利益金額	14.06円		7.77円	
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額	14.05円		7.76円	

(注) 1. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	第171期 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)		第172期 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	
	1 株当たり当期純利益金額			
当期純利益(百万円)	5,556		3,068	
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-		-	
普通株式に係る当期純利益(百万円)	5,556		3,068	
普通株式の期中平均株式数(千株)	395,168		394,966	
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額				
当期純利益調整額(百万円)	-		-	
普通株式増加数(千株)	236		576	
(うち新株予約権(千株))	(236)		(576)	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	-		-	

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	第171期 (平成23年 3 月31日)		第172期 (平成24年 3 月31日)	
	純資産の部の合計額(百万円)	84,139		85,138
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	62		151	
(うち新株予約権(百万円))	(62)		(151)	
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	84,076		84,987	
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数(千株)	394,982		394,946	

( 会計方針の変更 )

当事業年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日)を適用しています。

潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定にあたり、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しています。

なお、これらの会計基準等を適用しなかった場合の前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、14円05銭です。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。



【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価 証券	その他 有価証券	Mizuho Capital Investment(JPY) Limited	20.00	2,000
		株式会社ふくおかフィナンシャルグルー プ	3,326,664.00	1,220
		株式会社みずほフィナンシャルグループ	8,129,400.00	1,097
		株式会社西日本シティ銀行	4,552,815.00	1,065
		福岡空港ビルディング株式会社	1,156,100.00	645
		日本空港ビルデング株式会社	580,800.00	632
		株式会社井筒屋	10,520,418.00	599
		株式会社正興電機製作所	1,133,031.00	577
		株式会社九電工	1,142,000.00	555
		株式会社三井住友フィナンシャルグルー プ	202,535.00	551
		株式会社三菱UFJフィナンシャル・グルー プ	1,293,540.00	532
		株式会社東陽テクニカ	523,800.00	471
		九州電力株式会社	387,200.00	456
		福岡地下街開発株式会社	907,200.00	453
		株式会社福岡中央銀行	1,245,551.00	452
		京阪電気鉄道株式会社	1,131,000.00	445
		野村ホールディングス株式会社	1,202,525.00	440
		西部瓦斯株式会社	1,820,000.00	405
		三井住友トラスト・ホールディングス株 式会社	1,529,528.00	403
		久光製薬株式会社	100,000.00	392
		株式会社佐賀銀行	1,442,566.00	340
		TOTO株式会社	491,000.00	305
		株式会社筑邦銀行	1,305,788.00	283
		RKB毎日放送株式会社	339,800.00	270
京浜急行電鉄株式会社	367,000.00	265		
その他98銘柄		2,646		
		合計		17,511

【債券】

銘柄		券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他 有価証券	野村ホールディングス株式会社 第1回期限前償還条項付無担保社債(劣 後特約付)	50
合計		50	50

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他 有価証券	投資事業有限責任組合及びそれに類する 組合への出資	6
		出資証券(川棚温泉開発有限会社)	2
合計			207

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
土地	75,709	505	455	75,760	-	-	75,760
建物	221,011	(注) 1 10,119	1,192	229,937	133,949	6,165	95,988
構築物	95,620	2,720	668	97,672	58,495	1,863	39,177
車両	83,393	3,361	2,227	84,527	74,225	4,051	10,302
船舶	404	-	-	404	347	8	57
機械装置	17,348	1,143	897	17,595	14,209	813	3,385
工具・器具・備品	16,362	1,204	906	16,660	14,214	1,128	2,445
建設仮勘定	8,986	(注) 2 18,295	18,557	8,724	-	-	8,724
有形固定資産計	518,838	37,351	24,906	531,283	295,442	14,030	235,841
無形固定資産							
のれん	-	634	-	634	184	31	449
施設利用権	3,181	22	95	3,108	1,608	130	1,500
電話加入権	104	1	0	105	-	-	105
ソフトウェア	10,584	506	1,346	9,744	5,598	1,875	4,146
その他	152	-	-	152	-	-	152
無形固定資産計	14,023	1,164	1,441	13,745	7,391	2,037	6,354
長期前払費用	32	9	31	10	-	-	10

(注) 1 当期増加額の主なものは、サンカルナ二日市建設2,255百万円、ソラリア西鉄ホテル銀座建設2,184百万円、西鉄リゾートイン那覇建設1,386百万円です。

2 当期増加額の主なものは、バス車両新造(乗合130両)2,672百万円、天神大牟田線春日原～下大利駅間連続立体交差工事2,242百万円です。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	275	17	36	50	205
賞与引当金	1,444	1,784	1,444	-	1,784
役員賞与引当金	38	42	38	-	42
独禁法関連引当金	-	2,034	-	-	2,034
関係会社事業損失引当金	-	854	-	-	854

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、一般債権の貸倒実績率による洗替額等です。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	991
預金の種類	
当座預金	23,217
普通預金	588
外貨建預金	761
小計	24,567
合計	25,559

ロ 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先名	金額(百万円)
株式会社東陽テクニカ	13
株式会社荏原エリオット	3
株式会社荏原製作所	1
合計	18

(ロ) 期日別内訳

期日	金額(百万円)
平成24年4月 満期	5
" 5月 "	4
" 6月 "	3
" 7月 "	4
合計	18

八 未収運賃

相手先名	金額(百万円)
株式会社西鉄チケットサービス	475
太宰府市	117
株式会社福岡交通センター	98
福岡市	30
株式会社西鉄ステーションサービス	20
その他 (注)	110
合計	853

(注)福岡市教育委員会発達教育センターほかです。

なお、未収運賃の回収状況は次のとおりです。

		第172期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
繰越高	百万円	909
発升高	百万円	61,982
合計	百万円	62,892
回収高	百万円	62,038
残高	百万円	853
回収率	%	98.6

二 未収金

相手先名	金額(百万円)
福岡県	792
株式会社ニモカ	764
NNR・グローバル・ロジスティクス(U.S.A.)	505
株式会社西鉄ホテルズ	322
福岡市	289
その他(注)	8,342
合計	11,017

(注)株式会社西鉄チケットサービスほかです。

なお、未収金の回収状況は次のとおりです。

		第172期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
繰越高	百万円	9,219
発升高	百万円	120,350
合計	百万円	129,570
回収高	百万円	118,552
残高	百万円	11,017
回収率	%	91.5

ホ 販売土地及び建物

物件名	金額(百万円)	面積(m <sup>2</sup> )	
土地			
美鈴が丘団地	850	49,975	福岡県小郡市
コットンヒルズ月の浦	663	57,112	福岡県大野城市
美鈴の杜団地	640	13,758	福岡県小郡市
ライオンズ六ツ門サンリヤンタワー	600	3,121	福岡県久留米市
マークシティ大橋	536	4,615	福岡市南区
コットンヒルズ桧原	460	28,042	福岡市南区
その他	9,909	854,617	
小計	13,660	1,011,240	
建物			
ブライトパーク・サンリヤン地行	849		福岡市中央区
パーク・サンリヤン博多の森	486		福岡県糟屋郡志免町
サンリベラプライム天神大名レジデンス	342		福岡市中央区
コットンヒルズ月の浦	284		福岡県大野城市
美鈴の杜団地	231		福岡県小郡市
マークシティザ大江	230		熊本県熊本市
その他	2,429		
小計	4,854		
合計	18,515		

ヘ 貯蔵品

品名	金額(百万円)	
鉄道事業用品		
工事用品	556	
営業及び事務用品	9	566
自動車事業用品		
運転及び工事用品	29	
営業及び事務用品	27	57
その他用品		
営業及び事務用品	211	211
合計		834



固定資産  
イ 関係会社株式

銘柄	金額(百万円)
子会社株式	
株式会社スピナ	3,122
株式会社西鉄シティホテル	2,506
西鉄興業株式会社	1,444
株式会社西鉄ストア	1,055
株式会社あんくるふじや	1,027
その他	7,418
小計	16,575
関連会社株式	
西日本空輸株式会社	119
九州急行バス株式会社	18
株式会社太宰府園	10
その他	8
小計	155
合計	16,730

流動負債

イ 短期借入金

相手先名	金額(百万円)
株式会社福岡銀行	5,950
株式会社みずほコーポレート銀行	5,200
株式会社三井住友銀行	3,600
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,000
西鉄バス北九州株式会社	2,909
その他	24,794
合計	45,453

ロ 未払金

相手先名	金額(百万円)
西鉄電設工業株式会社	2,563
西鉄建設株式会社	1,929
西鉄エム・テック株式会社	1,132
三井住友建設株式会社	679
株式会社松本組	675
その他(注)	15,947
合計	22,927

(注)株式会社西鉄グリーン土木ほかです。

固定負債  
イ 社債

銘柄	金額(百万円)
第35回無担保社債	10,000
第36回無担保社債	8,000
第37回無担保社債	7,000
第38回無担保社債	8,000
第39回無担保社債	10,000
第40回無担保社債	7,000
第41回無担保社債	7,000
合計	57,000

ロ 長期借入金

相手先名	金額(百万円)
日本政策投資銀行	(3,697) 31,118
株式会社みずほコーポレート銀行	(2,281) 14,609
株式会社福岡銀行	(2,244) 13,851
株式会社西日本シティ銀行	(1,154) 7,873
三菱UFJ信託銀行株式会社	(704) 5,049
その他	(2,558) 16,083
合計	(12,638) 88,585

(注)金額欄の( )内は内数で1年以内に返済予定のものであり、貸借対照表では流動負債の部に区分掲記しています。

ハ 長期預り保証金

区分	金額(百万円)
保証金(注)	16,415
敷金(注)	15,263
合計	31,679

(注)ソラリアターミナルビルほかです。

(3) 【その他】

特記すべき事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで		
定時株主総会	6月中		
基準日	3月31日		
剰余金の配当の基準日	9月30日(中間配当) 3月31日(期末配当)		
1単元の株式数	1,000株		
単元未満株式の買取り・買増し			
取扱場所	福岡市中央区天神二丁目14番2号 日本証券代行株式会社 福岡支店		
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社		
取次所			
買取・買増手数料	無料		
公告掲載方法	<p>当社の公告方法は、電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、西日本新聞に掲載して行います。 なお、電子公告は当社のホームページに掲載することとしており、そのアドレスは次のとおりです。 <a href="http://www.nishitetsu.co.jp/nnr/">http://www.nishitetsu.co.jp/nnr/</a></p>		
株主に対する特典	<p>毎年3月31日及び9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対して、その所有株式数に応じて次のとおり株主優待乗車証(定期券方式)、株主優待乗車券(回数券方式)、株主優待券(かしいかえん入園券・チャチャタウン小倉観覧車利用券共通)及び西鉄グループ優待カードを発行します。</p>		
	ご所有株式数	株主優待券(かしいかえん入園券・チャチャタウン小倉観覧車利用券共通)	西鉄グループ優待カード
	1,000株以上3,000株未満	4枚	
	3,000株以上	4枚	1枚
	ご所有株式数	電車・バスの株主優待	枚数
	3,000株以上10,000株未満	電車・バス株主優待乗車券(回数券方式)	4枚
	10,000 " 20,000 "		8枚
	20,000 " 30,000 "		12枚
	30,000 " 40,000 "	株主優待乗車証(定期券方式)電車全線又は地区限定バス全線	1枚
	40,000 " 67,000 "	株主優待乗車証(定期券方式)電車全線又はバス全線	1枚
67,000株以上	株主優待乗車証(定期券方式)電車・バス全線	1枚	
<p>(注) 株主優待乗車証(定期券方式)は、株主一名につき最大計5枚まで発行いたします。ただし、2枚目以降は各乗車証の最低発行基準の5倍の株数が必要となります。 乗車できる電車、バスは次のとおりです。 1 電車・バス株主優待乗車券(回数券方式) 天神大牟田線及び貝塚線 一般路線バス(当社の指定する子会社の一般路線を含む)</p>			

株主に対する特典	<p>2 株主優待乗車証(定期券方式)</p> <p>(1) 電車全線株主優待乗車証 天神大牟田線及び貝塚線</p> <p>(2) 地区限定バス全線株主優待乗車証 選択地区内の一般路線バス(当社の指定する子会社の一般路線を含む) なお、選択できる地区は、福岡・北九州・久留米・筑豊のいずれかとなります。</p> <p>(3) バス全線株主優待乗車証 一般路線バス及び当社の指定する高速路線バス(当社の指定する子会社の一般路線及び高速路線を含む)</p> <p>(4) 電車・バス全線株主優待乗車証 上記の(1)及び(3)に乗車できます。</p> <p>西鉄グループ優待カードの優待内容は次のとおりです。</p>	
	対象	優待内容
	西鉄グランドホテル	宿泊10%割引、レストラン・バー10%割引(一部店舗、商品を除く)、婚礼の飲食特別優待(料理・飲物5%割引)
	ソラリア西鉄ホテル	
	九重西鉄ホテル「花山酔」	宿泊10%割引
	西鉄イン	宿泊1,000円割引
	ソラリア西鉄ホテル 銀座・鹿児島	宿泊1,000円割引
	西鉄イン博多岩盤浴「RESERIA」	200円割引
	西鉄旅行	自社募集型企画旅行商品(国内3%割引、海外5%割引)
	西新パレスポウル	ボウリングゲーム料会員料金
	西新ゴルフセンター	入場料・ボール料会員料金
	ゴルフウエスポ	会員料金(ショートコース、平日2F打ち放題、3F打席、アプローチ練習場)
	きどりや・ぎおん亭・ グラノー・グランシェフ	飲食10%割引
	雑貨館 インキューブ	商品5%割引(一部商品を除く)
	マリエラ	セットコースメニュー10%割引
	だざいふ遊園地	入園料50%割引
	西鉄自動車学校	割引券(普通車の教習を27万円に割引)1枚
	にしてつ保育園ピコラン	一時保育1時間無料券5枚
	マリンワールド海の中道	入館料 大人・高校生200円割引、中学生以下100円割引
	その他	車検割引

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書	事業年度 (第171期)	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日	平成23年6月29日 関東財務局長に提出
(2) 内部統制報告書 及びその添付書類	事業年度 (第171期)	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日	平成23年6月29日 関東財務局長に提出
(3) 臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府 令第19条2項第9号の2(株主総 会における議決権行使の結果)に 基づく臨時報告書		平成23年6月30日 関東財務局長に提出
(4) 四半期報告書 及び確認書	第172期 第1四半期	自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	平成23年8月12日 関東財務局長に提出
(5) 四半期報告書 及び確認書	第172期 第2四半期	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	平成23年11月11日 関東財務局長に提出
(6) 四半期報告書 及び確認書	第172期 第3四半期	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	平成24年2月13日 関東財務局長に提出
(7) 発行登録書(普通社債 及びその添付書類)			平成23年8月15日 関東財務局長に提出
(8) 訂正発行登録書	平成23年8月15日提出の発行登録書 (普通社債)に係る訂正発行登録書		平成23年11月11日 関東財務局長に提出
(9) 訂正発行登録書	平成23年8月15日提出の発行登録書 (普通社債)に係る訂正発行登録書		平成24年2月13日 関東財務局長に提出

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 6 月28日

西日本鉄道株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 森 行 一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 東 能 利 生
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 佐 藤 宏 文

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている西日本鉄道株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

#### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、西日本鉄道株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。



#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、西日本鉄道株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、西日本鉄道株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しています。
- 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成24年6月28日

西日本鉄道株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 森 行 一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 東 能 利 生
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 佐 藤 宏 文

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている西日本鉄道株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第172期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、西日本鉄道株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しています。  
2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。